

許官

瓜生政

西洋

東京
書林

特31

671

西洋新書二編序

頃者閱瓜生氏所著西洋新書則

其地味之肥瘠氣候之變易及物

之見小風俗之都鄙等記載亦備

而其體裁專在令婦女子身事

焉若夫深窻之女邊鄉之兒

此卷則將出蒙昧之域而入

之門其裨益於世蓋不小少也

西洋新書二編序

許官

瓜生政

西洋

東京
書林

西洋新書二

編序

瓜生氏所著西洋新書則

之肥瘠氣候之變易產物

風俗之都鄙等記載畧備

裁專在令婦女子易讀了

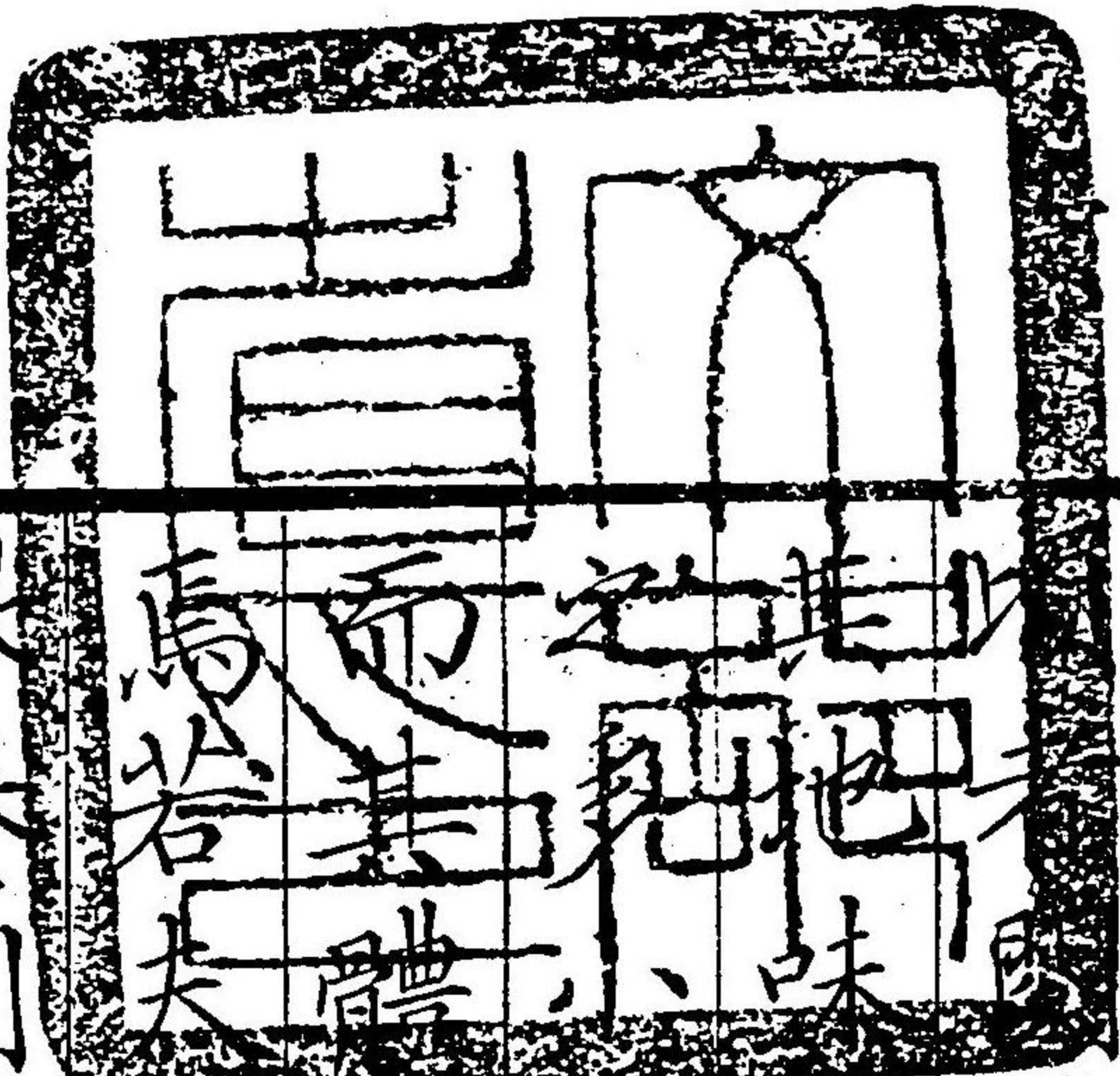
深窻之女邊鄉之兒

此卷則將出蒙昧之域而入

之門其裨益於世蓋不小也

特31

671

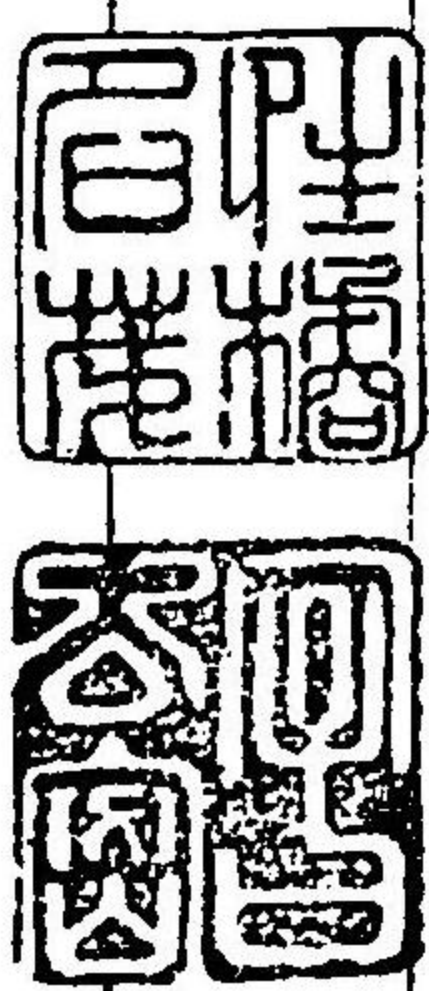


西洋新書 二卷序
澤氏曾著西洋事情曰希為窗下
之壁紙八九年前乎茲而未見為
窗下之壁紙依然案頭之一要書
焉夫如婦女學未甚盛其如識字
解義者十而蓋二三耳故翻譯之
書至于多插漢字者則其難讀了
也可知矣乃此書於婦女謂昏夜
之一燈可乎雖然遂以此書至于

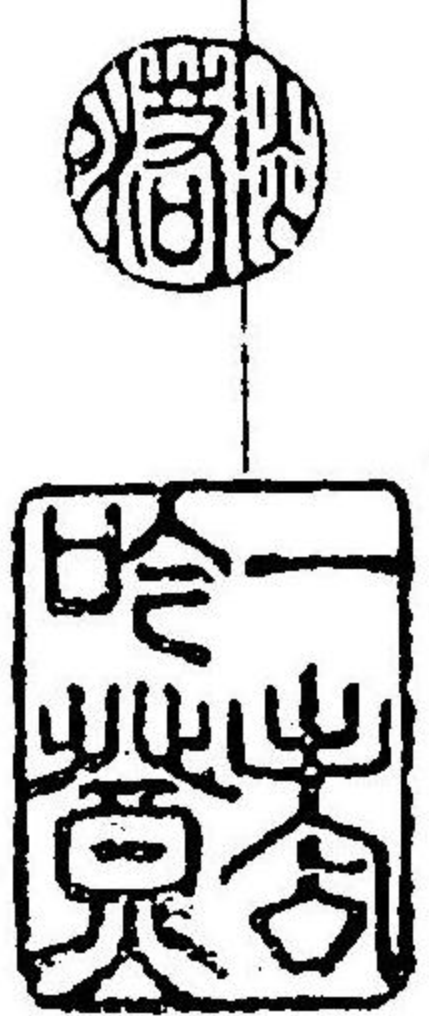
為窗下之壁紙何喜如之瓜生氏
之意盖亦在于此歟

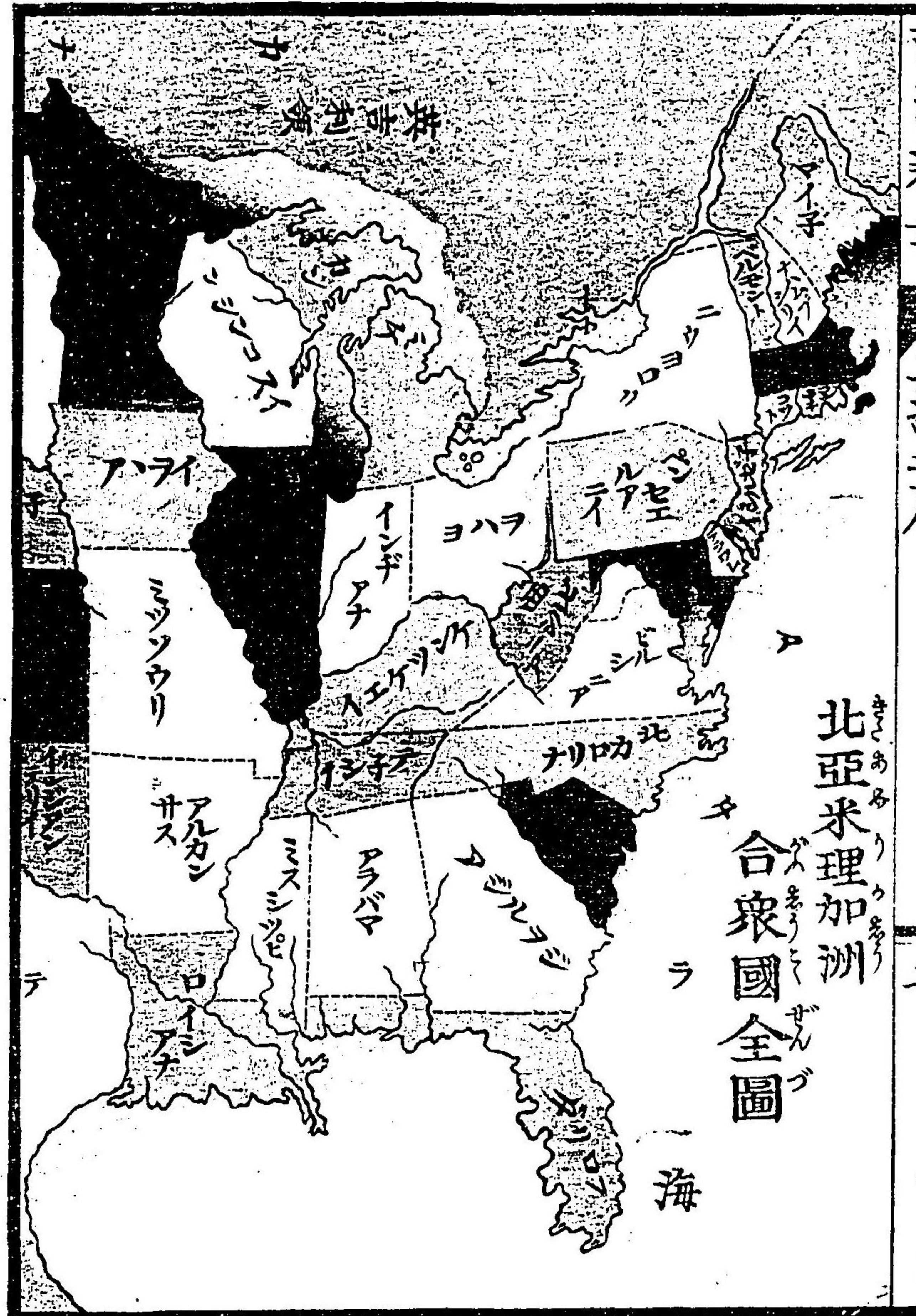
壬申仲夏

三驚迂史撰



自欺衛人書



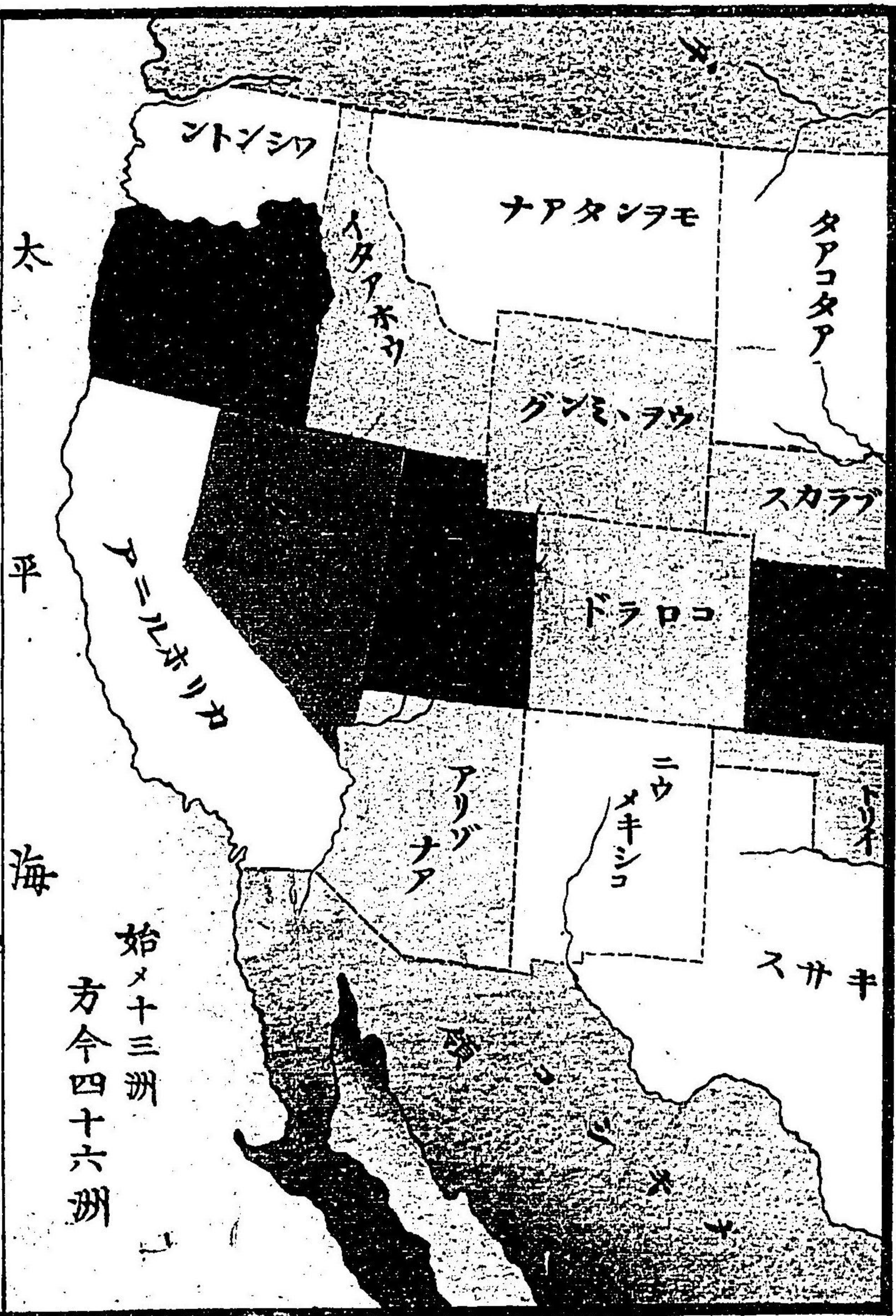


北亞米理加洲
合衆國全圖

海

正海新書

二



始メ十三洲
方今四十六洲

太平洋

上の巻 目録

- 合衆國開化の説
- 婚姻の説
- 小児抱びの説
- 手妻并八人藝の説
- 風雨鍼の説
- 合衆國各所晴雨并風信の説
- 花火の説
- 奢侈の説
- 議事院の説
- 牢舎の説
- 英人亞米理加へ移住の説
- 誕生日と祝ふ説
- 遊藝并踊の説
- 風船并発明の説
- 戲場の説
- 酒宴并吸煙の説
- 博物館の説

下の巻 目録

- 華盛頓生立行状の説
- 華盛頓仏蘭西の陣營へゐる説
- 華盛頓仏蘭西の軍を破る説
- 華盛頓大草坡籠城の説
- 英吉利勢「ジュクスネ」城を攻る説
- 英軍敗走華盛頓殿の説
- 合衆國英吉利と不和の説
- 亞軍英軍と「レキシントン」小戦ふ説
- 英軍「ブンケル山」を攻「ワルレン」討死の説
- 華盛頓大元師と成るの説

○華盛頓一波士頓府と陷るの説

○合衆國産物の説

○ワールハイカンボウ墓場の説

○華盛頓府市中風俗の説

○亞人日本人と愛慕するの説

○亞人力量あるの説

○出火ネーポンフの説

○大統領居館の説

○時計の説

通計 三十七條

凡例

書中今より何年かとおと死しつゝは治平年より

西洋年号千八百七十二年の明治四年の事とある

西洋新書第二編卷之上

東京

血生政和編集

○華盛頓府市中の説

アメリカ加初始めの只歐羅巴島の内の伊太利。佛蘭西。和蘭。英。吉利。西班牙。瑞典。蒲萄牙。等の國々の人至ると雖も、國々の人も年々小来り年々小返りて、ハ亞米理加小滯留する者へ只英吉利の人の多故、小合衆國の人物規模體制、ハ大概英吉利の者と同様あり、其後佛蘭西。和蘭。支那。亞非利加等の諸國の人三々五々群々ハ来り、ハ洋居するも、

多けとい合衆國の人員一日ごとと盛ん小成往千六百八十八年
 今より百八十四年より大数十二万人ありし其後千七百五十
 五年小至りてい百万人余とあり其後千七百六十五年小至り
 てい三百万人となり其後千七百七十三年小至りてい三百九十
 二万一千三百二十八人となり其後千七百八十三年小至りてい五百
 三十二万六千五百七十七人其後千七百九十三年小至りてい七百
 二十三万九千九百三人其後千八百三年小至りてい九百六
 三万八千一百八十一人となり其後千八百十三年小至りてい一
 千二百八十六万六千九百二十人ありしが今小至りてい三百三十二
 億九万千八百七十六人となりし由あり然れば其繁昌あるを



増一く英吉利佛蘭西支那
 等小ありあき方らぬ程と成り
 前編既ふ合衆國首都華
 盛頓府日曜日の多と記一中端
 小して早るか故小統く日曜日の
 遺漏と補さんとめると以て巻首
 小置り合衆國ふても七日を以
 て一週とあり日曜日より算へ始
 めて月曜日火曜日水曜日木曜
 日金曜日土曜日ふて終る以上

七日を法西洋各國より由上よりより人々を世界開闢の始
 として上帝天地万物と六日の間にして持へあげ七日の休息
 として以て今も七日めを休息日と定め天帝の拜礼するの
 日としてす言とて實に耶蘇宗門の日として以て説法授
 教の日とぬまば日曜日の法長く廢止する事あるべし
 千六百二十二年の六月今より二百五十年ほど前英吉利
 王嚴しく國民の諭して若く今より上帝を信する者の殘
 らぬ耶蘇新教宗と成るべし人々乞ふ額利教を
 へ耶蘇舊教等の宗旨と信仰するを固く停止あり若し
 け禁制と祀り考ふるべし後科の事ありべしとある

英吉利の人亞米理加島へ家と移すもの三百人餘り是は何れ
 由耶蘇舊教信仰の人をば亞米理加島へ往て隨意に法
 教と奉ぜんと欲するがぬふしては三百人の者始めて今の
 馬沙雪島の辺に移り住し新英吉利の名を負せり
 其後十年程と経るうち小猶追々亞米理加島へ移り住む
 りの三千餘人小及びが皆是耶蘇新教の成んとて
 ひ我從あの宗旨と奉ぜんとめる者のあるは殿堂と建
 学校と設け家職と勉強して土地を富さんとめるの計策
 頻りあり其ころの早伊太利佛蘭西西班牙和蘭等の
 人追々来り貿易日々小盛ん多故既小今日の繁昌小

至りしあり然りと英吉利人の著述せし書のうち小亜
 米理加國の元英吉利の罪人どもと軍兵の元を彼の國へ
 渡り残り置る者の子孫ありと言ふこと開け取留も
 空論にて其実に英吉利人の裡の大志の者等小
 島の規則の往誥りたるを履ひ奮發して去て新大國へ
 渡るに春の鶯の幽谷と出て喬木を遷るの意あり然も
 ども風俗教法藝術をど小至りて皆歐羅巴人頼り
 て開けしもの、按ずる小英吉利小於て耶蘇舊教を奉
 ずると禁ぜし故小耶蘇舊教信仰の人三百人早く
 亞米理加小移りて往居せしあり然りと英吉利人流罪

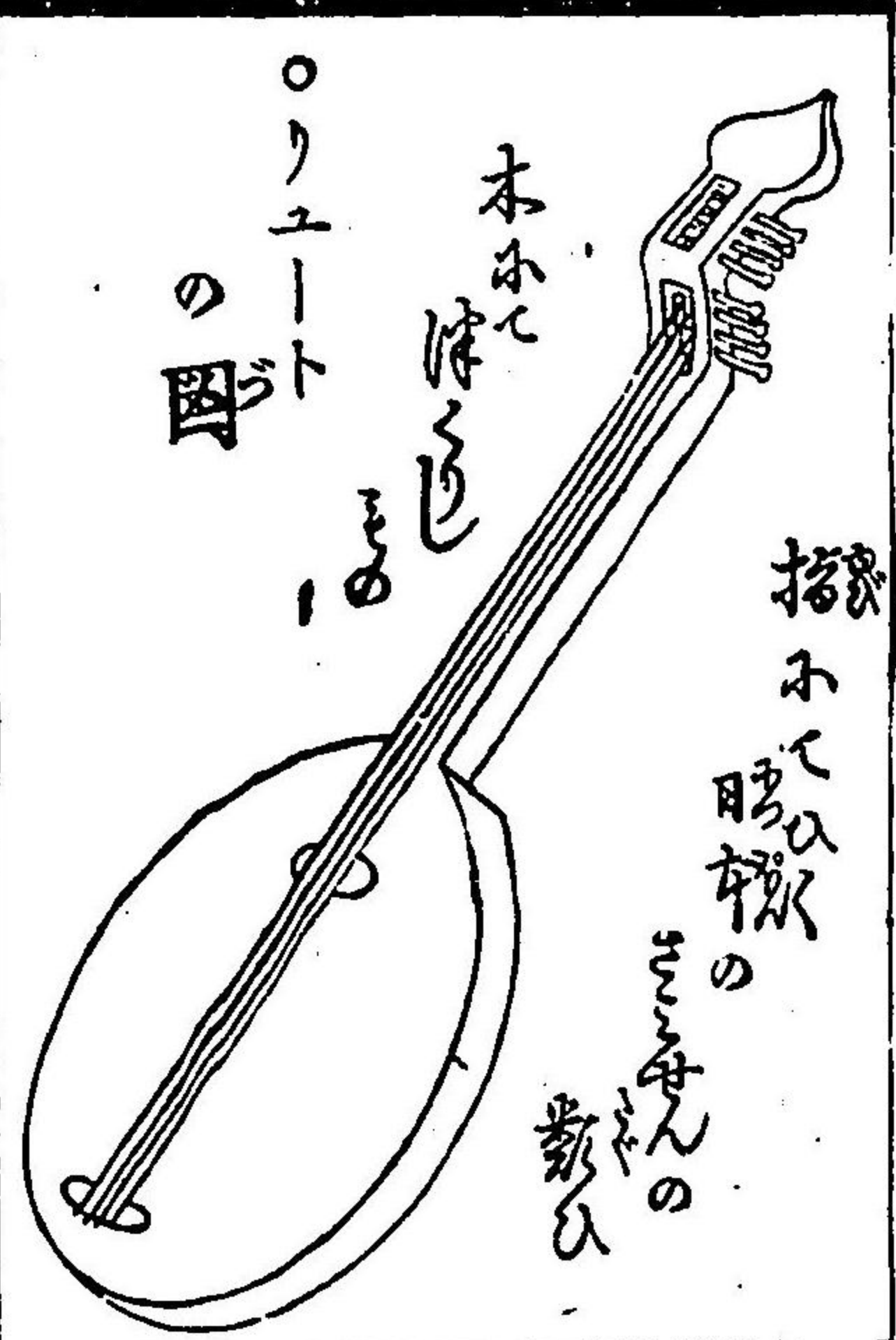
人の様小云ひありて亞米理加人と識る其國強く且富
 と以て是と妬むの悪口ありて亞米理加の國人豈尽くけ
 三百人の子孫をらんや既小前條小言ふが如く英國より移
 りし者へ敢て宗旨を改め衰ぜず他國小移る程の性質
 堅固の者あり故子孫の今小至るまで日曜日と以て法話と
 聴聞小往るもの甚多し
 當口ハ市中一般の休日ありて衆人の衆を羨し市中を廻り兵
 卒ハ銃と肩小して絶ず四辺を巡邏するを常と做せしけ國中
 て妻と娶る小ハ男子十七八才以上小あり我が思ふところの乙女
 あり其娘の父母へ云入れ承知すとい直ち小所縁と結び相

互ひの往通ひするを三五年彼是の賢愚と察し男女とも
小弥夫婦お成んと思へ佳期と定め婚する日おの堂上お
ありて男女手と握ると式とすけ時一人の士官立合ひて兩
人の素生と正し兩人の姓名と公おつらぬ然して終

男女をて
採交して
性遂と
通りの節



身とともおさるあり男子ハ二十才女子ハ十八才おゆるが交
通の道と免さるとん既小前編お解つる養子と貫ふも妻と娶
の法式と同ト他りのびん夫婦手と曳れ市中と往来するあり
都て夫つらもの其妻と接撫る夕の深き西洋各國ともおさ
同トけ國おてハ先祖父母の忌日といへども死せし人の命日と祭
りて供養すると云ふとあり然ととも誕生日お遇へ親戚朋友
と會し賀宴と罷きて餐應すると身代の限りと以てん故
お大統領の誕生日ハ一年中の大一の佳節として國民一衆商
賣と休し貴賤これと祝ひ四方祝炮と発すると以て砲声晝夜止
しきあり又夜お入れハ所々おダンスの躍りと催し市中賑ひ



て尽す小至れり又彼の邦の二月二十五日ハ耶蘇の生辰ありては日もちま一年中の佳日といふ民もよく祝ふて大悦願の生辰の如し

儲まては国にてハ子産るとハ寺院ハ謁で教師ハ乞ひて初湯と名を附て貫ふと常例とせり是我國にて子産るれば官奉りて号其氏神へ奉謁さすと同一又孩兒と寐さすハ籠の如き卧床と持らへその中へ入れん寐らし抱さかへん寐さすも云ハる一女ハ取分け乳と大切すも更小兒小乳と飲するも小兒の天窓と衣服の

中へ入ると他人小乳と見られぬ抱ふるあり小兒と抱せざるハ我朝の如く脊を負ひお抱き歩ゆるも云ハる皆小き車の上小兒と乗せ見お女も是と引こて抱せざるも常とす然とどの些々足の働さお来るも小成ハ多くハ歩行せる抱ふるあり又頃達ての一人抱ひハ木より繩と下げ繩の先と論ハ結ハ輪の丸ハ足と乗せ体と宙ハ下げお後左右ハ揺り動らして抱ぶ是船へ乗りて激浪のみ小揺動する時の警言あり又大いある犬ありて其犬小乗り歩行又鍍の輪と小きき俸けて叩きおら是と廻して追走するも種々の抱びとあり小も生長の後の誓古と成べきものとぬさるなり童子七八才より十五六才までの者日々小

構への内を必ずあり舞臺に物場とも度大ゆへ大踊り
 て催すと「ダンス」といひ踊り子と「ダンス」とり入り因りて舞
 老あじの舞いとも然号するあり踊りの士老工商ともおはせたる
 ナ「ダンス」のつと非び人々の後一画も品八人舞ふとの
 歎ひのり後一画の入り各々の都府世家中の噴火山
 高名の湊の景色或ひは松火事雷雨電光とうおこ口上のと
 うく細やうふりて昼夜の景色と分ち見せしむ大抵我々の
 おお似たりと種も仕掛おつて大いありおおおの入口上のと
 とくありて不忠儀の離れ業て入するあり先論とつ四方後を
 ところふち口上とい遙う小顔も居て「さんや」と叫ぶ論「ナン」と

かり「三ツ叩いてか目小掛」と言ひ「鈴」を「三ツ叩いて
 か目小掛」と言ひ「鈴」を「三ツ叩いて」と鳴り「三ツ叩いて
 静ぬ」といひ「寛やうおなるたり」或ひは人の首と切落しその首と
 引揚ると首「キキ」といひ首の切口より垂り流れる血むらりと
 揚り種々の化物とある又其首と胸の切口へ乗せ切ると「膏藥
 と附れば即座に愈て元の人とあるあり或ひは切さる首と我々の
 抱へ首をさ体めて引こむ杖とあり又竹と四本立て立ると竹の
 先へ兩脚の甲と両足の平と乗せて腹這より其竹と左の右
 の左の足右の足とごんぐお拂ひ除きと体へ元の如く空
 中小腹這ひ居るありけお口上りひ空中の者の体の上下と

構一の内必すあり華屋尼物場とも廣大なり大踊り
て催すと「ダンス」といひ踊り子と「ダンス」のり人因りて
老あどの歌ひとも然号あり踊りの士老工商ともおそとる
す「ダンス」のり非び人おの移一画品八人藝まの
歌ひのり移一画のり各々の都府世家中の噴火山
高名の湊の景色或ひの松火事雷雨電光とらおん口上のと
うへ細やうのり昼夜の景色と分ちせしむ大抵我の
おお似たりと推し仕掛おつて大いありおのり入口上のと
とありて不思議の歌れ業と見するあり先論と四方縁を
とらおん口上といひ遠くお離れ居て「さんや」と叫ぶ論「チン」と

あり「三ッ叩りてお目お掛力と言へ鈴「チン」と鳴り「三ッ叩りて
お目お掛力と言へ鈴「チン」と鳴り又急おと言へ早く鳴り
静おとまが寛やうおなるなり或ひ人の首と切落しその首と
引揚まが首「キキ」とはまき首の切口より垂り流れる血むらりこ
揚り種々の化物とる又其首と胸の切口へ乗せ切る所へ膏藥
と附れば即座お愈て元の人とあるあり或ひの切さる首と我の
抱へ首をさ体ふて引こむ杖とあり又竹と四本立て立たる竹の
先へ兩脚の甲と兩足の平と乗せて腹這より其竹と左の右
のふ左の足右の足とごんくお拂ひ除まど体元の如く空
中小腹這ひ居るありけお口上りひ空中の者の体の上下と

長き棹さかにて拂はらひ仕掛しかけのなきと示しり然しかして後のちに空中くうちゆうの人ひとの足あし
 物人ものひとの天窓てんそうの上うへと通りて引込ひきこむ天井てんじやうと逆さかしまふ這こひ小こさ
 き箱はこの中なかより種々しゆしゆの物ものと採出さいしゆすまど其術そのじゆつ極ごくめく妙めうあり八
 人やくわい蔭かげの老人らうじん小供せうきゆうの声色しやうしき雷らいの裏うらき雨あめの降ふる音ねへハマナハマナの曲まが
 三ッパさんぱ遠近えんきんの吹ふけ分ぶんけあど我われの物もの小こぢりてあ曲馬まがば乗のり
 りの多おほく女をんなと以もつて座頭ざがらうとあるあり馬ば上じやうの中なか返かへり馬ば上じやうの籠かご被かけ
 むど其業そのごふ実じつ不達者ふたつしやとつくせり観物場くわんぶつばの鳥獸ちゆうじゆう魚ぎよ出でまゝら造ぞう
 り物もの何なに不ふ限げんらず添そら一ひとき品しやうあまは是こゝと與行いうぎやうすと雖なほも菘しゆ
 簀すいわり菘しゆ背せまどの小屋こゝああらが随分ずいぶん美み麗れい小こ四し辺へんと作つくれり始はじめ
 めの風船ふうせんも勸物場くわんぶつばも拵しゆくへて衆人しゆじんより見料けんりやうととり空中くうちゆうへ昇のぼり

トより言へり

風船ふうせんの大小たうせう不同ふたうと又またも大抵たうてい

四五間四五かんあどの九こき袋ふくろの長ながき

口くちありのて風呂ふうろとく又またその

上うへ小網せうあみの袋ふくろと掛かけ八方はつぱう小數せうすう

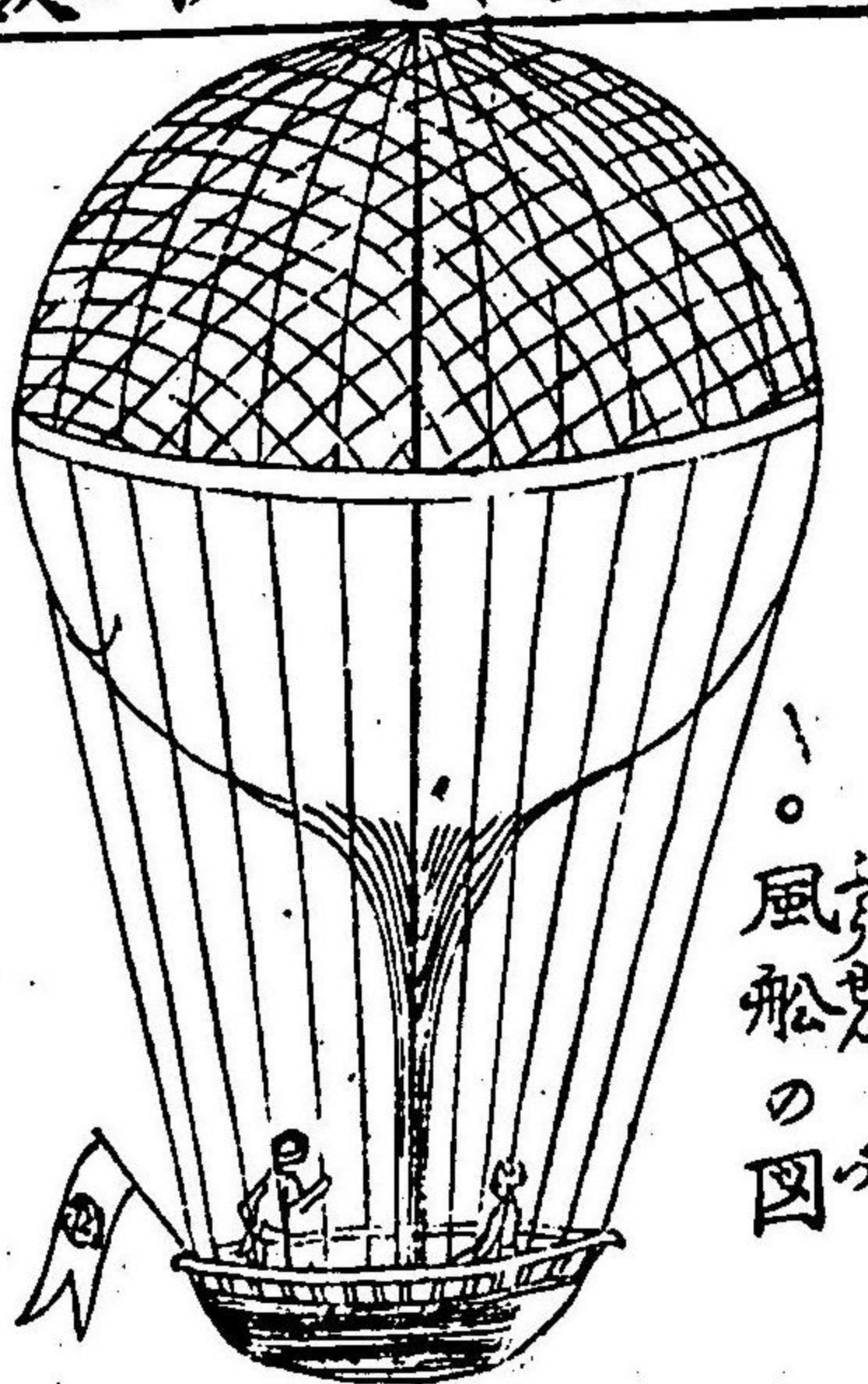
多おほの緒いとと下したげその緒いと小錠せうていの

重おもりとつけ置おき差さしこつ六七

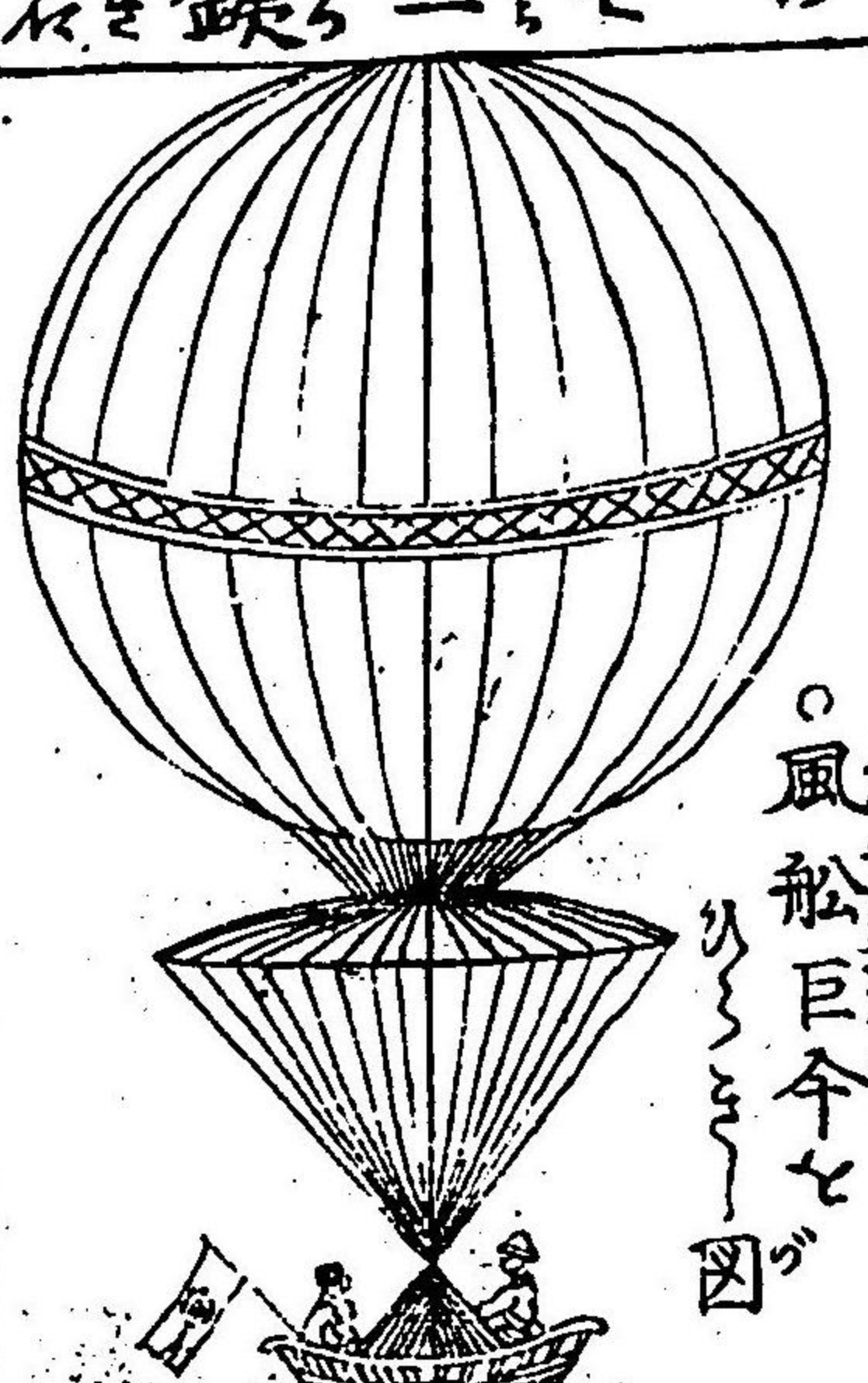
尺しやくの九こき旅たびの板いたあ船ふね小人せうじん一

二人ふたり乗のりり袋ふくろの長ながき口くちより錠てい

の管くだふて樽たるの中なかへ貯たくわへる石いし



風船の図



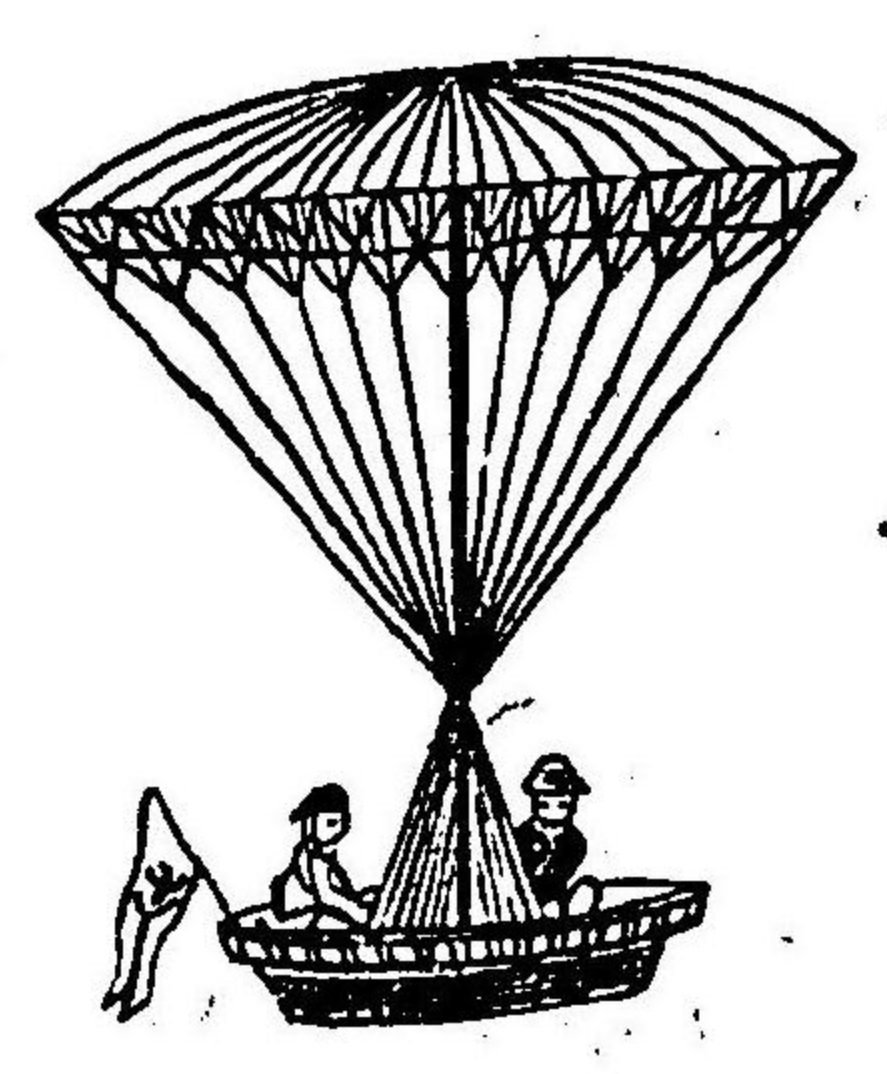
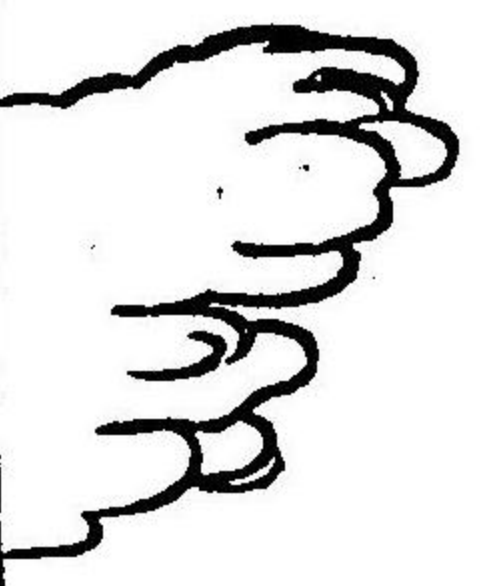
風船巨今々の図

炭の包の紐をに入れ蒸気袋の中を満張するときは緒を附する
 袋の重りを解きその緒と船の八方を結び付て放す袋の
 長さ口の塞ぐまでも蒸気出ると船は次第に空中へ
 昇り然して揮せぬりおふかえ走り其走るの迅速
 なるを日本まで六夜ふくむとく人談炮玉の疾き
 するは比より日本速ははる夜木の例量多は比し華盛頓
 より日本への速徑化を五里とく斯の如く速くあれは
 空中と飛往小疾くして目も速らざ然れども風船の揮の
 採り方六ふくく餘り小高く昇りさきを氣薄き
 ところふ至り人死するを折々あるは慢りゆいあるものと

許さず亦是小多ると馬麻者とあるよりみとも一昨年中
 佛蘭西寺魯士戦争の節に寺魯士勢小巴利斯と圍
 まると佛蘭西入通路塞ぐ故に船も風船も多りて四方へ
 往来せしより少く風船の乗り方開けらるより言と真
 かりや否や抑風船は佛蘭西の人にて兄と至チエヌと云
 ひやと「ジョセツナと言ひ」兄弟の者の發明ふて最初の濡と
 る藁紙毛の類ひと燃し其暖さ氣と球の中を込めて十七百
 八十三年今より八十九年ぶの六月五日小六千四百丈などの
 高さ小空中へ昇りりと始とある故に風船の名を「モン
 コルヒー」とも云ふ「モンゴルヒー」の發明人兄弟の姓あるが故

あり然もども火の温気と球へ込めたるみて冷安く
 て空中に永く止まるる能はざるより又其の究理学者
 シヤルレと云ふ人機械学者のロベルトと云ふ人と共計
 りて水素瓦斯と号し石炭の瓦斯球を含まして空中
 へ昇ると云ふ工夫を考へて之を軽気球と名づけ風船あり
 亦風船にて海の上を越ると千七百八十五年今より八十七
 年おの正月七日英吉利のブランシヤルトと云ふ人英吉
 利の海岸より佛蘭西の海岸へ十七八里をのりて乗
 りしと始めとす風船の空へ昇るの高さ十三三里を以て
 限りとす夫より上へ昇るは空気をありて人生ると

能はず夫故に風船へ乗るもの晴雨針寒暖計とて
 持て是より度数と計りるから昇るあり

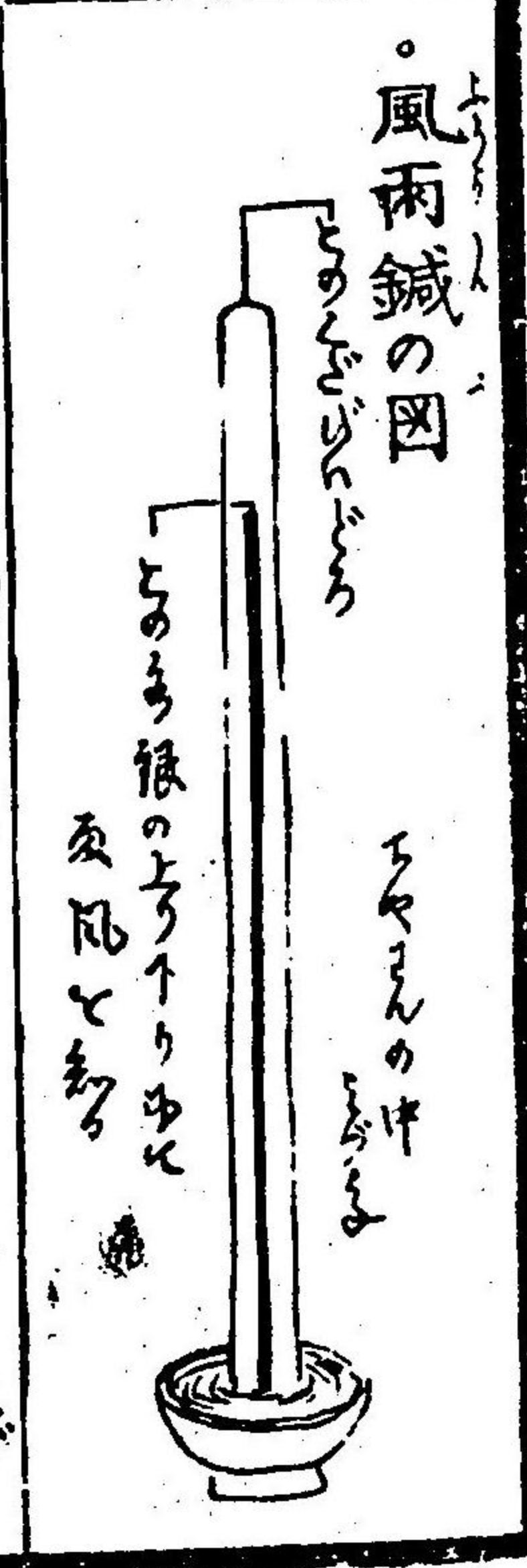


晴雨鍼の空氣の度と計るの器にして以太利國の究
 理学者トリスセルと云ふ人の發明あり其仕掛ハ三尺計
 の硝子の管に水銀を入ると一方を塞ぎ是と倒して

茶碗へハふ目など水銀を入置その中へ管の下の方の
 有る方の端をつれば管の中の水銀を溢れ出て高さ
 二尺三寸計りの処まで下りて止る其故ハ空気のみ
 茶碗の水銀と上より押付管の中の水銀と支え二尺
 三寸より下へ降らせざるあり空氣の重さハ管の水銀
 の重さと丁度いところにて平均あり是よりも空氣
 重くかまば茶碗の水銀と強く押して管の水銀ハ
 是がゆゑに昇り空氣を挫くかまば茶碗の水銀と押し
 ても弱くして管の水銀へ降るありは管の水銀の下
 り方にて空氣何れ薄く成る故風船へ何れとの

高さの昇り下りと
 云ふと知るあり

又雨氣有ると云ふ



空氣を挫く故茶碗の水銀と押し力うすくして管の
 水銀下り快晴の時ハ空氣重くある故茶碗の水銀と押
 す力強くして水銀と管の上へ押し揚るあり故水銀
 の上り下りみ晴雨を知ると以て晴雨鍼の名ありとも
 實ハ空氣を計るの器なりと西洋では是と「バロメーター」
 と云ふ山の高低を計るも矢張晴雨鍼の管の水銀の
 昇り降りみて知るあり 佛蘭西國ハ耶蘇の礼拝堂あり

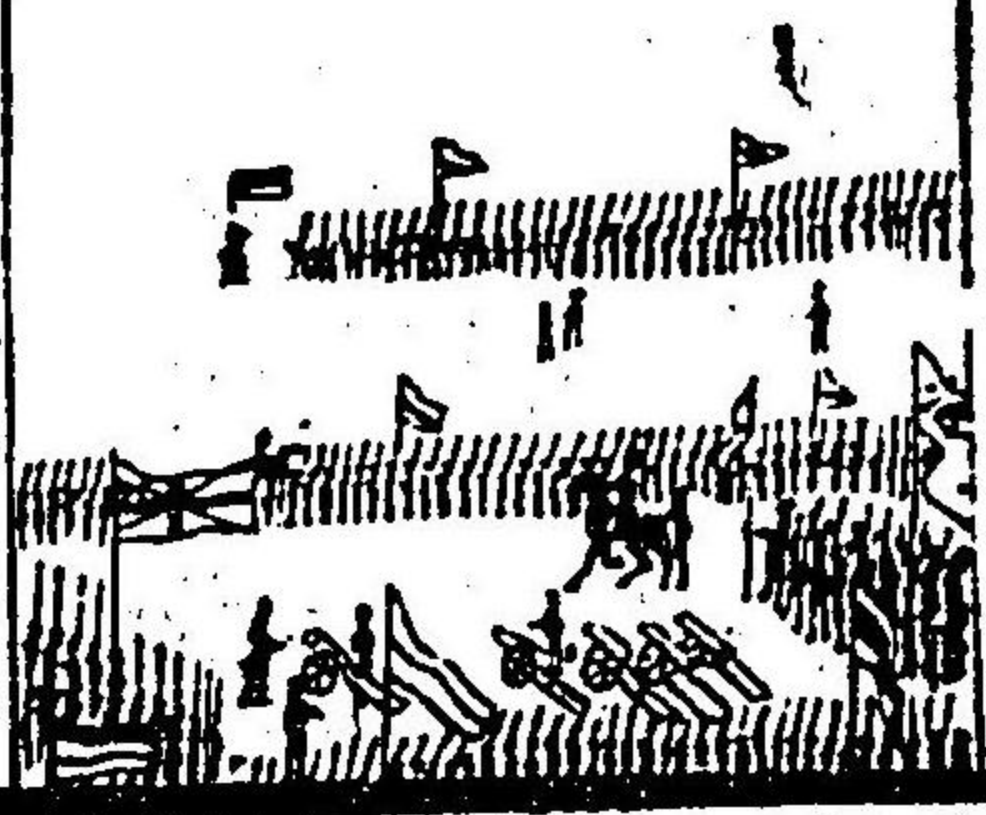
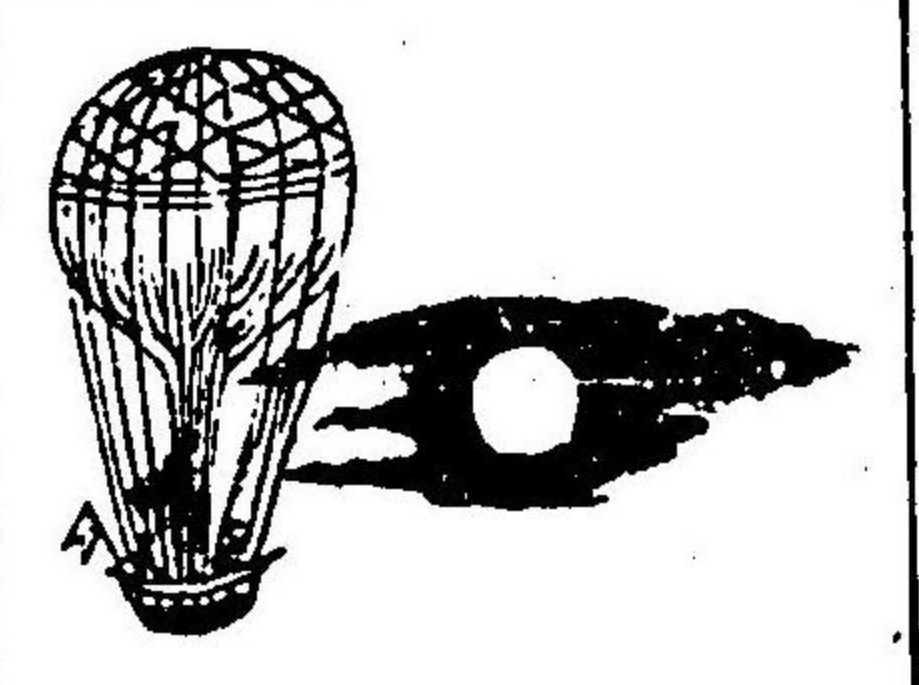
其高さ四十丈ふてけ堂の頂上へ晴雨鍼と持上ると平地
 小在るとさより四分やど管の水銀下るあり是は空地
 と離ると次第小遠と故其壓力も弱く成り一故ありとぞ
 寒暖計ハ千七百二十年今より百五十二年前和蘭の究理
 学者フアレンヘイと云ふ人の発明ふて矢張長と管の中へ水銀
 と入ると其水銀の上り下りふて暖と寒とを知るの器あり故
 小風船ハ漸々小昇り地上の温際と放と終小寒際の高
 さ小至るとさよば空中の寒ととも計り是と晴雨鍼の空
 気の壓力とを合せて空中へ昇ると既小何千何百丈成
 りとゆると知るあり

又風雨鍼の因ふよりて言ふ彼の国の人の晴雨風信と測り
 一記あり華盛頓府に於てハ一年の内ハ大概晴天二百二
 十二日雲と與すと五十八日雨降ると七十二日雪降ると十三
 日あり波土頓城に於てハ毎年晴天二百二十四日雲と與すと
 八十四日雨降ると三十五日雪降ると二十二日あり巴頓而碌府
 小於てハ一年の内ハ晴天二百六十二日雲と與すと七十六日
 雨降ると九十七日雪の降ると更ふあり又風の吹るとハ華盛
 頓府小於てハ一年の内ハ北風五十六日西北風八十七日東
 北風三十五日東風十六日東南風二十四日南風四十四日西南
 風五十五日西風五十六日あり波土頓府の如きハ毎年北風三十

日西風四十九日西北風六十四日東北風四十三日東風三十二日
 東南風十六日南風三十七日西南風八十八日あり巴頓而祿
 府小於てい毎年北風三十九日西風七日東北風十日東
 風五十九日東南風十六日南風七十一日西南風十五日西風
 百四十六日なり但一々の毎年の雨雪曇晴風信の模様小
 附て推て氣候と豎とい土地の羨悉の大畧へ指と操ても
 知るべきあり
 再説風船餘り小高く昇り過て空氣の薄ら處へ至れば
 早く氣球と切放して捨因小なる處の如る大今小て降る
 あり然れどもは大今ハ氣球の下小窄め有るもの小て氣

球と切捨て上より落る途中の空氣の支え小て今と采うす
 物あるは其危きと言ふべからざるあり

。凡松小舟の
 故軍の陣中と
 うる上因



風船と戦争の時用いへの佛蘭西帝制ナルテ一向耳義国と
 の戦ひ小佛蘭西方の「モロー」と云ふ大將風船小乗りて敵營
 と窺ひしとるると始めとするや西洋人の説小後世小至らぬ
 追々小工夫て其宜と得世界の通路ハ風船と用ひて成んとせり

花火の大掛りふりて玉の色赤青黄多し仕掛ものハ州
 花も数々各々の旗印まじり種々の文字とらと取へす是と揚
 るふ町の内のはげ場ふかりてす我れと遠く石瓦を積みて
 持へる家もまじり火花散りぬきとも更み構はず人もまじり
 袖ふて冠りりのみまじり頭上へ玉の落ると必まじり花火の仕
 掛実ふユミおして見る者夜更れとも倦多と知らず
 芝居の模様ハ我れの内容とい少く異ありといども廻り舞
 臺迫出しまじり皆あつてお枝の大仕掛あり男形ハ男女形ハ女
 おてあつたり我れ言ハ喜怒哀楽の心情を旨とあり世話ハ荒
 ら不化つとあり初てまじりといども湯子の幕あつとも事

又各国の新文誌ハ面白きとあれが夫と新狂言ハ仕組て出す
 本の狂言ハ日本の衣服と以て支那の仕組られれば支那
 人の身形り持へて以てす飲食ハ芝居の中おてハ用ひず幕
 のメリとる間ハ他へ出て飲食す故ハ芝居の近辺ハ料理
 茶屋のさひ多し
 狂言の仕組又見世物の中の体ハ巡覧の人の條下ハ委
 發出すべし
 造り花と賣る見世あり造り花ハ十五六才より廿二三才まで
 の女おて持へる猪木綿紙とらと以てする至つて美多かり
 字ま師の足世あり又錦繪と商ハ見世あり綿繪ハ銅板ハ

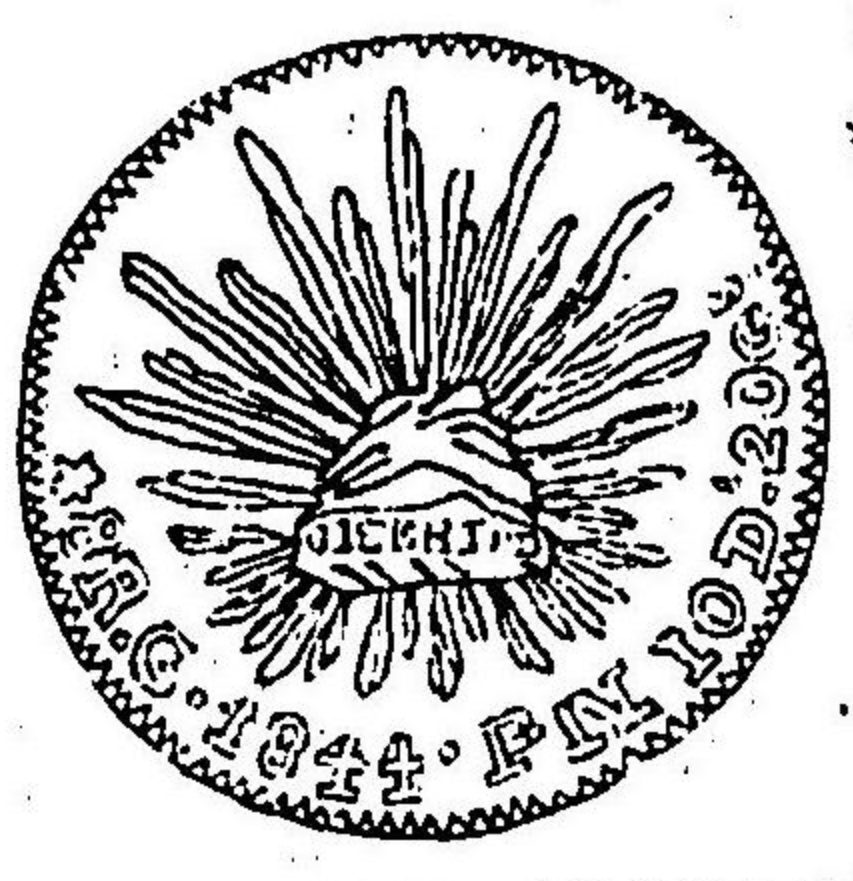
して各城の仕掛とりを以て括するもの又種々の益を以て賣
 見世あり硝子硝子物銀細工より多しるふおてハ富その
 人の家の益ハ何れも銀を以て儲けり多し銀ハ目方不
 て賣買するも後令換ト出たりとも目方旋りとも各
 硝子硝子物とを以て却て極用多しりておら令銀と
 用の多しりとも令日日本よりハ位そりと銀とも平人
 ともまて杖の金具とて杖金ふん括へりり多しり子套後の酒
 トらるるも一室も通用の貨幣ハ金銭銀銭さうお各玉の
 幣幣の多しり多しり通用さるる衣敷の多しり人ハ一日不備
 と是等も三度ふりて機りさ者と銀由日系是より日銭

經るて用ひずおしめて由垢の
 付らると着まはぬ病いとけむらと
 以て衣服ハ勿論足袋とてき香と
 取えるお由部屋へ入り内より鏡
 と卸し他人小肌と見せぬ扱お
 するハ貴族も門ト史も多人の部
 屋へ入るふハ外より戸と敲ら中
 おて卷へをわけて後ふ戸と明て
 這入る答とをききとバ戸と明け
 びまて部屋毎ふ姿見の鏡化

亞米理加錢の図
 金錢 十ドル



銀錢 一ドル



金錢 一ドル



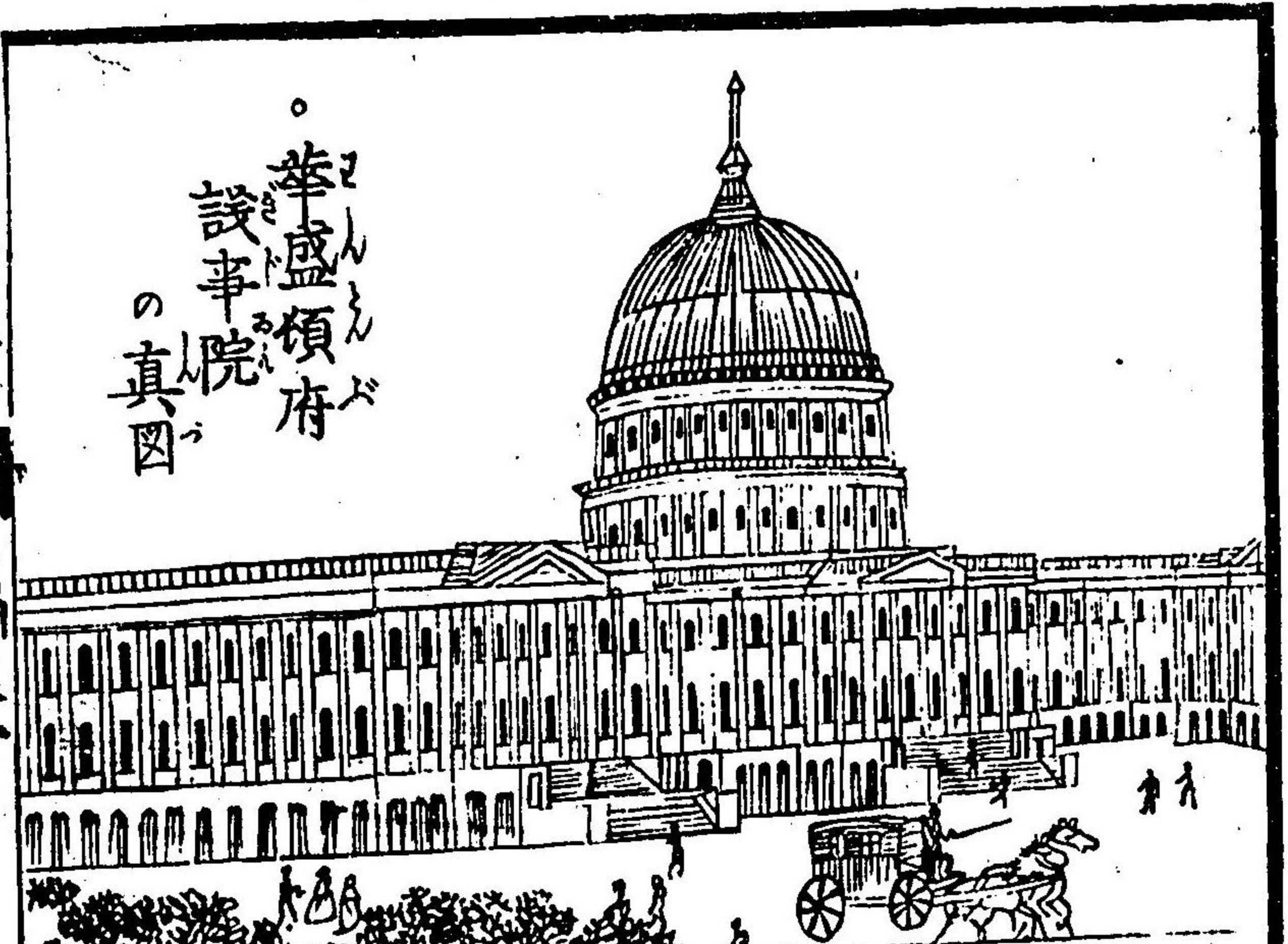
銀錢 半ドル



粧道具あるを以て編み解さるべ敷せず借る酒宴を設けり午後夕飯の時わたり小して臨時小宴を定くと稀あり然れども二三盃の洋酒と菓子など飲たあり是は我國にて一寸茶菓子とり小所へ用ひたり酒宴へ銘々小盃を和え我分量をけ小飲て相互ひ強うてさ酒宴の喰臺小の必らば草花を飾つて式とすは草花の價一兩より六七兩ぐらひまで不至る酒へもら麥酒と用ひ葡萄酒へ佛蘭西より來るもの多し酒と飲ても喧嘩口論をい及ぶもの更なる又煙草一室の中小女在るとさ小女免しと請ごまひ吞ずとさへは國のとも非らず英吉利仏蘭西など皆然り彼の

国々の風俗何とも女を尊敬すると常ある小女の煙草を用ひざるや女へ對し遠慮するや客來まば巻煙草三ツ四ツと出以當府中繁雜の場所ふても餘り置喧しき声と弁せず至つて靜穩ありは國の人質都て寛宥ふして正直と音と多し他邦の人と見て嘲り侮らるる者一見の者おも信実と尽すの情りと厚し是実高祖大統願華盛頓が私怒たると共和の餘澤ありと言へり黒人の諸院講堂茶店芝居見世物など小至るといども白人の立入る場所へ出這ると禁ず黒人の白人の奴婢と成りて居るもの多し往來の地へ水と藪の馬車の上小犬の乗せ其

桶おけ噴ふ壺がの如ごとき死ありて水みづと走はらせらるる水みづ桶おけの馬ば車ぐるま通とり
 たるあとの雨あめ後ごの如ごとし朝夕あさゆふふこの器き械がと以もつて往い来きへ水みづと時とき
 と常つととる人ひと格か子ごの振ふ出での仕し掛かふ一いつて伸の縮ちゆうの出来できる状さま
 小こ柄へらへ思おもふたゞの長ながさふ一いつて掛かるあり以もつて府ふ中ちゆう平へい屋やをく七しち八はち
 階かいの高たかさふ至いたるまで下くだの間まより火かのまままれ上うの間まの者もの逝いた妻つま
 外そとより階かい子ごと窓まどへ掛かけ樓ろう上じやうの者ものと逃にげ又また荷に物ものをどと
 も運うび下くだすことす
 後ご事じ院いんとて国くに政せいと後ごまゝの館くわんあり其その築ちゆう造ぞうへ四し方ほう百ひやく五ご十じゆう間かんが
 あり一いつく礎いし柱ちゆう梁りやう棟どうと一いつく至いたるまで皆みな蠟ろう石せきにて造たる床ゆかの
 下したふ蒸む気きの仕し掛かとある其その焰えん勢せいふて又また風かぜ車ぐるまとまゝ一いつく風かぜ



華盛頓府
 議事院
 の真図

と室むろ中ちゆうへ吹ふき風かぜやうにあり
 清きよ涼りやうといき冬ふゆハ蒸む焰えんの暖ぬ気き
 と寛あまふて室むろ中ちゆうへいい寒か苦くと
 凌しのぐの料りやうとあり
 博はく物ぶつ館くわん数かずヶ所ところあり一いつツの館くわん内うち
 へ合あ衆しゆう國中ちゆうの新しん規き規き明めいの器き
 械があれば器き械がの雛ひな形がたと作り
 工くわう夫人ふじんの姓せい名な年ねん月げつと一いつく記き
 て爰こゝに納なむ香かう草そう履り或あるは農のう
 具ぐまゝハ家か作さくの雛ひな形がたとあり

有りて其数幾千万と云ふと知らず婦人懐妊しんより後十月の間に下月毎小腹を裂て解分けと云ふと硝子の箱に入し置り古代より金銀銅と云ふは遠り一貨幣数百種あり國父華盛頓英傑ハチキソング着用の甲冑劍鎗と云ふの軍器あり又世界中の鳥獸奇石草木の園囿あり武館ハ四方一丁余ハ一ハ大なる柱所ハ立りミカ白き蠟石と以て造まり又一ツの博物館ハ日本の物あり太刀槍長刀具足鎗模様の衣類羽織袴呉服といふ道具といふ農具といふ至るまであり餘ハ太方前ハあるものと同一種類七百餘と集む武館の積の大きき六尺ハあるものあり蛇の種類七百餘と集む武館の

造築ハ前ハありのより又一倍の廣大あり
 窄舎ハ石と以て造築す窄内寄麗ハ一ツ部屋々々ハ窓と
 明け風と通ハす部屋の外ハ四方ハ廊下と通下往返の道と
 あり部屋ハ三階ハ多入敷と入るものあり又一人と入るもの
 あり部屋毎ハ雪隠と附る寒中ハ熱湯と見ふ呼び部屋
 部屋と暖めて寒苦や凌がハ罪人の世話とするもの数輩又
 士官絶ず見廻り衣服汚るハ洗濯させ病ひあるハ藥
 と云へかどしんも當するに深切あり合衆國ハ刑罪
 の法三種一ツハ絞殺二ツハ永牢三ツハ過料と
 出さすと言へり

病院貧院以下の敷院よりハ新紐約の條下に出す

大統領居館の傍らハ廣き草花の園あり中ハ二代目大統領ヘナヨン

アダムの真像あり入馬ともハ六尺をより銅と以て是と作るハアダ

ムハ帽と揚げ馬と並一絶行す

の形ちハ一馬ハおの蹄と揚

げ尾とあり空ハ向ハ後足と以て

立頓嘶するのさる處然とて坐る

ガ如一礎の高さ五尺余幅六尺余

璣石ハ人造築一周田ハハ鏡

の丸棒と以て柱とありテ下より



華盛頓銅像の圖

四五丁ハ一又月林の廣庭ありハと云ふハ閑祖華盛頓の真像あり華盛頓手ハ劍と提げ馬上ハ跨り馬の右の蹄と揚げ持ハ諸邦ハ横行せんとの意と示す矢張銅を以て作り一物ハ一礎のさま周田の垣と云皆ハ同一

高祖大統領華盛頓殞落の地ハ華盛頓府よりハ八九里東北の方ハあり勿爾尼阿加の中ハ滿注諾ハ一華盛頓が死後の身体とギヤマンの峯の中ハ納め空氣の通ハざる故ハ一置く今も其ところハ在りといふハ猶生る人の如くあり

とり

抑北亞米理加合衆国初代大統領名ハ一若耳治尊赫一て国

父華盛頓と呼做せる智仁勇兼備の大將ハ千七百三十二年
 日本享保七年今より百三十九年於彼の国の二月廿二日
 北亞米理加勿爾尼阿勿西磨爾蘭郡有「ホトマツク川の
 傍りアライシス」といふ地ハ「塞古斯的尹」と云ひ母ハ
 「馬理」といふ曾祖父「約翰」の時代ハ英吉利よりハ移り
 住る祖父「羅拔」素より父ハ至りて「小三代」家産次身ハ「繁昌」
 一「族」豊小暮す不至り華盛頓幼稚より軍事と好むの
 前「一」族「羅拔」の兄「羅拔」素の次子ハ「英國」學術修
 了ハ四歳稍熟をる二十二歳ハ「一」歳ハ「英國」在留
 中數度戰場へも趣きとて合戦の損益と父母ハ物語を

華盛頓ハ傍りより僅ハ七才の小耳と歌て眼扣きせず
 父「羅拔」が夫より後の假初の童子抱び小友を集めて
 隊伍と組成ハ敵味方の模様と作り礮と銃炮ハ之棒と槍
 劍と弓竹と吹く喇叭と學び太鼓と打て陳鼓と試むると其容
 更ハ我國の豊太閣の生立の幼稚抱びハ髣髴と華盛頓十
 一才の時父の「塞古斯的尹」病ハよりん死去母の「馬理」と共ハ
 兄「アラゴスチン」の家ハ移り「ボロイ」と云ふ人の弟子とあり
 學問修りてありけり華盛頓の母「馬理」ハ性質頗る
 賢明ありて我子と教え善ク勸む孟母の孟子と導き
 如「然」レハ華盛頓ハ相撲と走り走競とあり好んで荒馬ハ

あると総て剛強なる業と旨とせしうと未だ十一歳の幼稚心
小百十條の警語と認め是と座右不張り置たり其
文小曰

一人何う夏と為んや其事好く仕上らぬとて猥ら

小是と誇り笑ふ事あるを

一何処小在りても衣服の着ず尚の履方小むと存

又手袋の填り方と省こ形容の礼とぬれ小あり

べー

一事と云んあゆみ若く勤弁して後口と云くべー余り

早云小云ふべうぐ人の様子と竊小伺ふべうぐ居ら

ぬ人の悪多と云ふべうぐ

一飲食小耽る夏と云れ貪りて食ふべうぐ膳小倚と

るうと膳小向ひ食物の善悪味の甘鹹と云ふてあり

何事出来するとも飲食の時怒り罵つてあり別

人と共小飲食する時へ喜ばし色と以て養應べうぐあり

亭主の顔付悪しき時へ其処小山海の味ありとも

客の心小快くうぬ者あり

一娯楽保養とありとも外多うありとも剛鷄みど

るく樂しむありとも

是等の一二と以ても篤実温厚ある押して知るべし
華盛頓

十五才小一て軍ヲ志し其技計頻りあり一が母馬理固く
 止めて是と許さず翌年所用ありて「ヘルホイル」と云ふ所へ往
 する小其地ハ一家あり主人の名とコルド。ベックスと呼べり
 コルドハ狐狩と名と好ける故華盛頓が馬に乗るの
 巧もると喜び度々狐狩小伴ひたり一餘人へ未だ一疋の
 狐も獲ざるハ華盛頓ハ数疋と狩取る其働きの早さに
 コルドハ殆舌と巻う然とハコルドハ華盛頓の才機凡るら
 ざると知り我が領地の空漠る野原丘陵の悪所數百里の
 間の捨地と打こと頼けるハ華盛頓ハ算術と小熟練多
 故異伎あるは是と後後人ハ備の人ハてハ容易あらざる大



コルドと
 指の圖

業と蓋世の英才然日由あり
 仕果ふけきコルドハ弥感喜
 小堪えず斯る有能の少年を
 以て終に埋め置んハ本意小あ
 らずと頻り小周施推挙一
 て華盛頓と當地の縣の度地
 官小ぞ名一とりら然ハ華
 盛頓ハ地小在りて専ら職
 勢小勉強せ一ハ華盛頓が
 打る捨地ハ毛厘の違ひある

とて百三十年の今及べど初めの候ふて是と用ゑとぞ
 垂國開闢するこの方華盛頓が如く捨地不抄と得るものおほふ
 といふ言傳へり斯て華盛頓の三年と經ふるふは國の近く
 在住の佛蘭西人等英吉利人と討んと企てあるより風説
 街衢不紛く抑英吉利人と佛蘭西人兵端と闘んとするの
 月のえい「オイオ川」と「スツピー河」の間小廣大の土地ありて
 人民多く住居をせし因り英吉利佛蘭西兩國より互ひふけ
 地と採らんとあて終ふ戦争と引出すの端とい成りしあり
 然るに英吉利方にも佛蘭西人の軍の催し在ると云ふ哲時
 宥縁かりがくしく速く兵を募り「オイオ川」を境ありて

比方の岸でぞ固めりる都て亞米利加規則の平和の向ハ農工
 商何とも今日の家業と勢むると雖ども事ありハ兵器と提り
 戦所は往々常とあるあり然ればは時華盛頓もハ兵一隊の長
 小旗と十九才ふして初めて軍勢不煩るるが稍希望と遂ふ
 似たり然れども風説のミふして未だ軍及ハざるあり佛蘭西
 人の土人を煽動て英吉利へ對し不平と起させ土人と整然力
 と合せ英吉利方の所領の地と攻取んとぞ殺討ける爰ふま
 當地生産の人の心ありのハ英佛兩國の者ども他国人の身
 以て天より請得てけ地へ生さし人民あるふも憚りなくその
 國として我もの顔争ひ奪ふ何の理をえと双方の所置と

惡むあり又英吉利の国入らぬ商ひ貿易のめは来り相互
 ひの国と富す真心をど思ふより英吉利人へ味方を兵と出
 すも多うり然るをどふ仏蘭西人の兵と談合集め
 早英吉利の領分近へ操出へ来るの噂聞へけとい英吉利の
 大将「若維齊」はまづ仏蘭西の大将へ書と贈り何の因縁を以
 て我英領の境と侵すや迷やうふ軍と返し人命と損ふざるの
 所置有りといと「言を其返答と得るの序に仏蘭西勢の
 動静と探り且道すがらの土人と懐け往の大役誰この任ふ
 當るべきやと衆議區々ありたるが若年あるも華盛頓と
 出さざり然れば華盛頓への為自己の安危と願ふが速や

お領掌か一僅八名の者と引連れ寒風肌膚と裂くを嚴冬
 の空おむらひ人跡絶るを煙の池へ入り往と二百二十里余
 嵯峨々後嶺馬の脊と渡うが如く澹濶なる溪流水脛と越
 へ雪お埋まり雨お濡れ艱難困苦をえがけとい華盛頓へ
 勇氣凛々として撓まらず五十余日と経てやうや佛蘭西の
 陣營へ到着し英將「若維齊」の書翰と出せへ佛蘭西の
 大将とて請取華盛頓として旅宿お止め返書の集議區
 あり華盛頓へは向お岩の摸板兵の強弱多少地形の嶮易
 山川おど竊お探索を居たり然るお才三日めお至り仏蘭
 西方の大将より返輸出来て請取けとい即時お發足おせん

とわらふトラングレイとりの川氷
 封て船のこがさふさう陸地を
 出立かせふ深雪積る廣野
 いら馬勞れ人弱れど腰打掛
 べき家居はあそむ牧の駒守も小
 屋ご小をれへ山伏一野小寐
 て日数い経れど扱わす華盛
 頓心と苛り餘人の後より来る
 べーとくハジストとりよ者一人を
 従ぐ衆人の先達て頻りあそむ

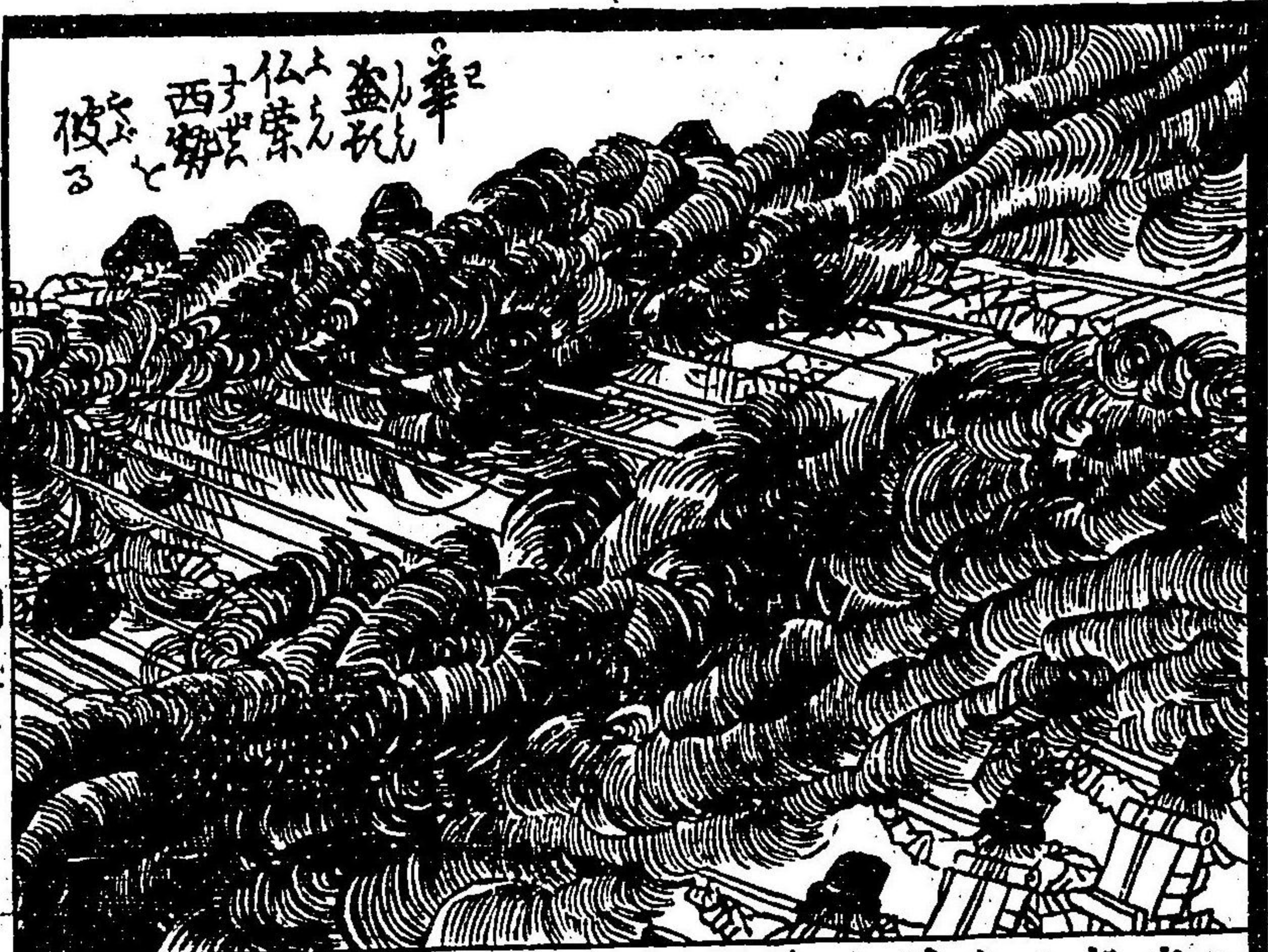


煙の原中道確と迷ふ折ら一人の獵師小往逢ひけさハ華
 盛頓倖僥と價と取らせては獵師小道案内と頼とけさハ彼の
 者頓小請引て華盛頓とシストと後中一先小達々往かから兩
 人の容子と詞ふさま合点往ずと思ふ故華盛頓ハ殊更ハ心と看
 さず居らり日既ハ暮向とわら時彼の者忽地後方と向
 さま肩ある筒と探るより早くシストと目差して撞と打
 狙ひ違ひてシストハ當らず玉ハ虚空と飛往ら華盛頓躍
 り逃んとわら彼の獵師と深雪の中へ踏倒し直ハ是と縛
 上らシストハ怒り劍と振突殺さんとわらと華盛頓押
 止めらる者と責問ひし款の廻し者あると白状しられど驚く

教諭を加えて追放し、をりけきハジストハ華盛頓が仕方徐り
 寛大なるを危ふと疎と付て往らふ彼の者ハ間たすし
 土人の家へ入りしと見届け少く安堵の胸と拵是より弥
 油断とせず種々の困苦小數日と経て明れば千七百五十四年今
 より百十八年ハ正月中旬ハ漸々と「ワイルムス」ホルク歸着
 ありしを爰ハ於て華盛頓ハ大將「若維齊」ハ蘭西方より
 の返管を渡し且敵中へて見受るし來る所の一伍一汗と物語
 是ハ「若維齊」佛蘭西方の返書と見るハ和議整はず断然手
 切の挨拶あり然らばハ方ハ備へてみえんと華盛頓ハ此度
 の功勞と称賛し華盛頓と拵げて三百人の兵隊頭とみ

おけり爰ハおいて華盛頓ハ蘭西勢の寄來らる先ふとて
 僅ら小三百人の兵と引具し再度荒漠の地へ取つて返し「オ
 オ川」指てぞ進こる是ハ依て「若維齊」ハ諸島ハ觸と出して
 「オイオ川」へ出兵カクカク「オ」の命令と下しし千七百五十四
 年今より百十七年前五月二十八日の十時ごろ華盛頓ハ彼
 の三百人の兵と率ハ赤石とリ地ハ往りしハ小蘭西
 勢の土人と蒐集め來りしと礮と出合ひ双方返へて立ちの間
 多早をわくと全砲して戦争とこそ成りふれハ時大將華
 盛頓ハ一小隊と引具し自餘の敵と目かけず小蘭西勢の本隊へ
 二を三ハ押のり死力を尽し久打立けしハ小蘭西勢も是と

見て英軍の大將討取れと一隊残らず勇と振ひ接戦数刻不
 及んどう然れど華盛頓が進退自在の術を流石練磨の仏
 蘭西勢も終つ討破らば右往左往小敗走まば鳥合の土人
 等何え堪へん筒と捨冠物と落し逃往さまへ風を散る木の
 葉の擣らるごとくかり華盛頓へ計らざるも仏蘭西勢と戦ひて
 十二人討とり二十餘人と俘虜とあり分捕り又ありければ手
 初めの軍十分の勝利を従ふ兵士に至るまで又一倍の勇気
 と増せばけ所より程近き倭海阿島の岩城の中千餘人餘り
 の佛蘭西勢土人の兵と多く従ふ屯集ありてよりあること
 惣勢是と物とも思はず猶大草坡と唱る地まで進み往く



華盛頓
 仏蘭西
 西勢
 彼ら

爰小狭の岩あり堀と俊ひ
 土手と高く一昔時兵士の足と
 休め各局より出張の援兵と待
 ちしども南喀爾勤那より僅
 小一百の勢来り加さるのこゝろ
 総勢四百小過ざりけり時敵
 方へ間諜小出さるものまこと
 土人の註進みて仏蘭西勢前小
 赤石ふて敗北あり辱辱と
 雪んと大軍と催し既小間

近く押寄せ来るの報告頻りかき華盛頓の急ぎ諸勢と分配
かり持場持場と固めさせ敵兵今やと待りけり然るに
七月三日の早天晴行霧の絶間より仏蘭西の莖嶺山風小飄
り陣鼓の響喇叭の音喧す多く既ふるをくしぞ攻寄せ来る
の註進ふて城下の騒動大かきるに稍九時ころふ至り数千の
敵兵潮の押来るが如く一隊一隊小列と分ち忽地砦城の四方
と圍こ大砲小銃と打りけ打りけ一撃ふ落陥んとす城内
より大砲と打出し嚴しく防戦なりとりり此時華
盛頓へ小銃熟練の兵と撰り物わげ小竊ませて敵の指図役
と狙ひ打ふぬけしにバ仏蘭西方是ふ悩之途巡しと見え

とりり寄手の大将とてふるより一隊の土人と城の後方
の小山へ押上げ大木の上へ拳登らせ城中と眼下ふ見下し
拳下り小銃砲と打込せりければ城兵多く是ふ悩之皆物
蔭小身と隠し立産ふ成りて働らき得ば華盛頓とて
見て矢庭小大砲と曳来り胎壁の間より佛蘭西方の登り
大木の幹と狙ひ且ら図と見沈しと放まふ疾丸忽地大幹
と摧きて中より打倒せば木の梢ふ上りたる土人の兵卒薄
り落首と突こ腕と折り或ひハ梢の幹ふ押され怪我すは
ものあり死ぬものあり筭と乱せし有さまあり是とふるより
木の枝ある土人の肝と消し飛し落るが如く梢と逃下り

再度樹上小登るものあり爰に於て城兵ら後方安くあり
 けしむ弥防禦の力を尽しぬ仏蘭西勢もまゝ屈せず前軍
 弱れば後軍代り先隊退とば右隊進とば日色既し西山に
 斜みかたるまぐ攻立ととどむ城兵嚴しく力戦して撓
 景色更なるけしむ奮發なりとる仏蘭西勢も手も又
 打と彼処小倒と戦死手負二百餘人小至り日もまぐ既し
 暮るも今日の城攻は是まぐと引上の喇叭と吹とて四方の軍士
 と一手小纏め城下遙う小退ささり然とどむ仏蘭西勢は目小
 餘る大軍新兵と入れ之攻撃は落城すると必然ある小佛蘭西
 の大将の城兵ら防禦の豪烈ある小感歎を語てけしむ

落し陥んと為れば味方の人数を以て多く失ふのくみならず
 敵をかく怖物勇士と下殺すも最惜とそ夜の直小城
 中へ軍使をとて今日の防禦の勇猛多と賛称し斯る孤城
 小楯籠りて空しく命と捨んより城と居いて立退れば軍器更
 蓄の品々を侵し掠つて有るべしと礼正まぐて言ひ送り
 けしむ華盛頓も諸方の味方約と遠へて出来らば小勢を以て彼
 大勢小對し戦ひ連由勝利ある難しとんと悩居とつるも
 如ず捨殺しの孤城小在りて空しく兵士と殺さんより彼が言
 辞小任り少くと交勢極め使希の趣と承諾し此方より
 軍使と送り再三の應接ふて城中より五月廿八日赤石小

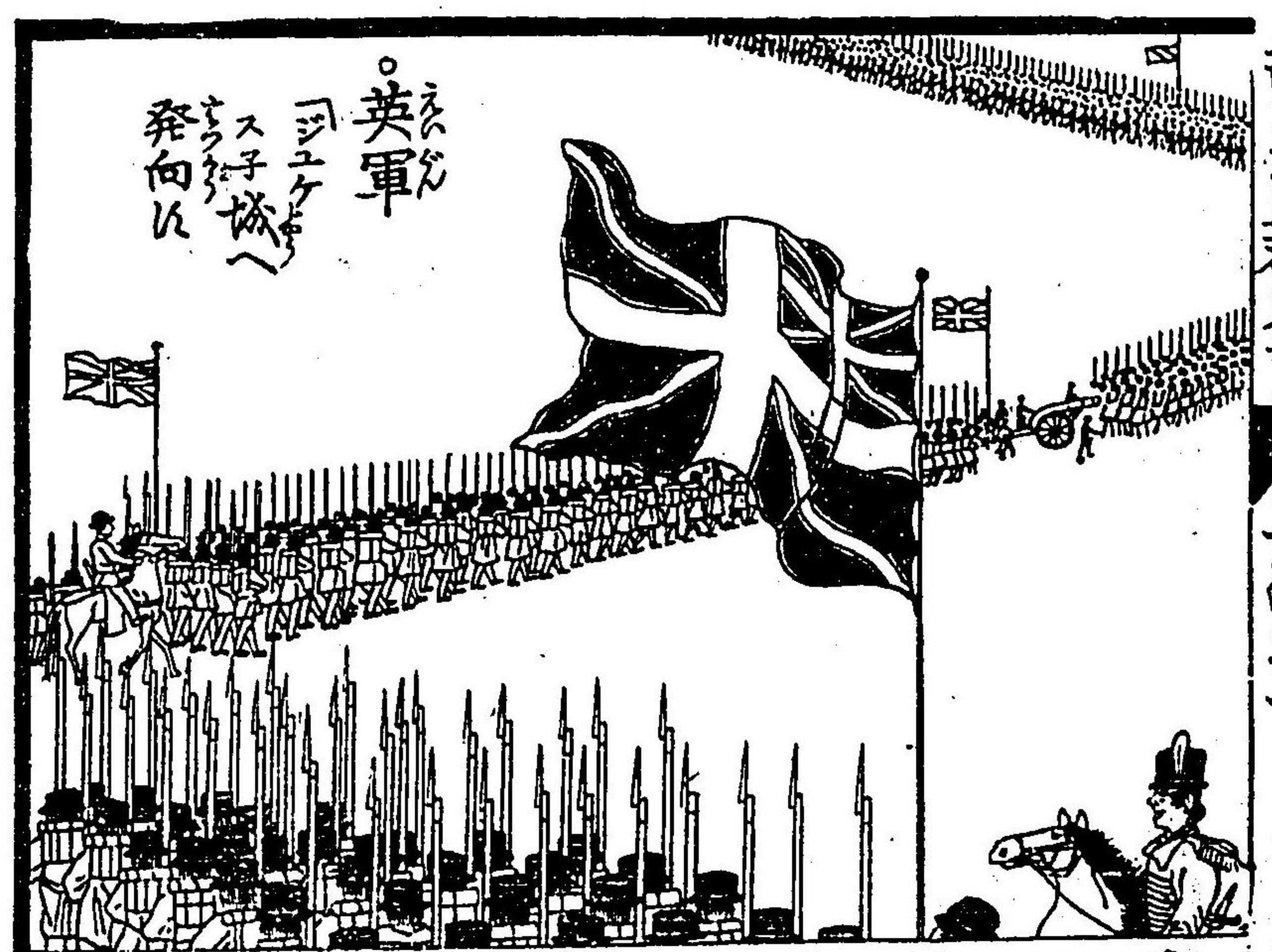
俘虜とらひまりしる者二十四人に返す寄
 手てハ城じやう中ちゆうの品しん一いっも犯おすを一
 と條約じやうやく整ととのひ明ある四日よひの早はや天あます
 城じやう中ちゆうと掃除そうじゆを一軍器ぐんぎと枚ま一
 隊たい一隊いったい小兵士せうへいしと操出そうしゆ一華盛頓へいせん頓
 中央ちゆうやう小馬せうまと進しんませ静々しやうしやうと牢城らうじやうを
 せ一ハ天晴あつぱれ智勇ちゆうゆうの良将りやうしやうあると感かん
 せぬののそとをまりしるを然さればはひみ
 世間一般せけんいぱんの風説ふうせつとあり亞国あこく仏国ぶつこく
 の両将りやうしやうとも軍旅ぐんりょ小長せうちやうせ一牙い置ち



ろうりうと称賛しやうさんありしるも后理ごりり再説さいせつ華盛頓へいせんの従兵じゆうへいと引
 具ぐ一急いっしやくぎ「ウヰルレムスホルグの地ちへ帰陣きじんを一大将いっしやう「若維齊じやくゐしやう
 不謁ふたつ一伍いっぶ一什いっしやくと演舌えんぜつを味方あじ斯しの如ごとくの因循いんじゆんふも可惜あつしやく
 土地とちを仏国ぶつこくの育うと成なるに歎息たんそくを一ハ大將だいしやう「若維齊じやくゐしやうハ
 黙然もくねんとして言辭ごんじを只ただ本國ほんこく英吉利いんぎりへ註進しゆしんして加勢かせいを求もとむ
 のこありたり然しかる小翌せうよく千七百七十五年せんしちひゃくしちじふご今いまより百十八年前ひゃくじちはちぜんねんの春はる
 小島せうじま英吉利いんぎり國王こわうの命めいと請うけて「世子せうしラル役やくの「アラドック
 とり大將だいしやう二千にせんの兵へいと率ひらひ仏兵ぶつへい追討しゆたうとして押渡おしわたり来きり
 「紐約にゆういよ島の「阿爾巴尼府あるばにふ小於せうて會談くわいだんを一仏蘭西ぶつらんせいの領地りやうちを
 四ツの街道しよつのかうだうありは四ツの兵へいと進しんんと決定けつぎを一四街道しよつかうだうの

内亦由ジユケス子城小敵兵多く弾薬兵糧もまゝ十分貯一以て
 近国の根城とるるを思ふと人乗取らるる自防の城ハ戦ハザ一と
 陥るべ一我まづ「ジユケス子」兵と進め彼の城と攻取らんとて大将
 フラドックハ三千余りの兵と率一「ヒルジニヤ」及びの内「アレキサンド
 リヤ」ハて勢揃ひあり「ジユケス子」城と差一て進發す華盛頓ハ
 土人一隊の長とありて陣中ハ從ひたり一が総督「フラドッ
 ク」ハ英吉利ハて有名老練の豪將ハれば法令嚴一く諸
 訊速ハらんと思ひの外輜重夥一きハより運送の人馬混雜ハす
 ぬハ進軍の隊伍ハ纏まり兼一程ハ案ハ相違一スハ
 以軍墓々一のラドと思ひ華盛頓ハ大将「フラドック」ハ出で

前ハ往返あり「」ハ地理の峻易村落の不自由と説き今の
 如くの大造ハてハ軍と進むハ支え多クハ宜く輕便の法策
 と用ひ人ハと辞一と一諫めければハ「フラドック」ハ土人の少
 年何ぞ軍多と知らんヤとて耳ハ入るハ只本國の兵との強
 一て是と頼一案内知り「」土地の兵士ハ却て後方備ハハ
 廻一「」愛ハ於て華盛頓ハ我ハ率ハ兵との輕便ハ
 嚴重ハ列と纏め行軍整ハければ集ハ抽んで見え「」け
 り斯て涉往ぬハ日と経て「アルニ」山と越「」ハ勝
 難ハるハ由ハ軍勢更ハ進一得ハ大将「フラドック」ハ愕然
 一として初めて華盛頓ハ諫言と信一華盛頓と膝下ハ招ハ我



前日汝が策を用ひず今日の延引不及べり今に至り是と如何計らひて宜しからんやと云うけとハ華盛頓答へるやう総軍とニツ分ち大砲の抜群の輕兵と率ひ早く「ジユケス子城へ出張なり」大砲まゝ輜重の類ハ残りの人数運送し後より進ん宜しき然れども「ジユケス子城へ」仏蘭西の援兵倒着せざる

先味方ととて攻撃の進軍のゆめと奪びた混雑却て策とあり勝利をひきよと「大砲」ブラドックの「實」のしびれ不請伏しこれと副將「ヤ」め諸隊の長等荷物をてい不自由ありとて區の議論と設け更一決あまうけり華盛頓が「旅中より兄へ送り」書状あり其文曰「け乃中ふ人々奮發して難道も構はば通りすぎさ不然にまで小高き山ありては是と平乃おぬんとて滞留し又小川ありても是は橋を掛はば僅六里と進むむ四日お掛りや云々」斯の如くおれば「ジユケス子城」の十分の備へと立おさ却て逸雄者若者らへ城外遙々お出張あり本日の蔭山の間お五人七人の兵と伏せ行列のうちへ発砲する

数回多しお軍の兵卒是がぬふ打腦まされ進み兼てそ見
 えとりの然れども大将ヲラドツクの責とせり頻り不兵と
 進まりし精一ジュケス子の城廓へ間近ふとそ成るりれ時ふ
 千八百七十五年七月九日総督ヲラドツクが指揮として全軍
 均しく備と立一隊一隊ふ列と別ち陣鼓と打とて喇叭と吹
 あげ大小隊の旌旗へ秋の野山ふ尾花ふ朝げの風ふ飄ぐり
 足並並ひ一沓の音の整然として律と乱さず今日ぞ戦争の
 手初めとして諸勢一倍の勇気とそり「モノ」がへら川の渡りと押渡
 り総軍一度ふ鯨波声と登り川原ふ傍ひて進んごり華盛頓の
 嗚呼盛大なる愉快とけ進軍と打詠め志さるふ歎称あり

けるが後年ふ至りても話一出して眼の前ふ残りて在りと言
 えとらん再説総軍二の渡りとも打越え向ふの岡へ登りかけ
 一ふの地丘陵高低巖石聳へ谷深く樹木まぎとそり
 中ふ唯一條の細な羊腸とて廻りくらん樵又のをひ路とも思
 一そ程ふれば華盛頓太いふ驚き遙の後方へより一人本陣へ
 走至り大将ヲラドツクが馬と扣え言るるの當地の形勢案内
 知らび多く深入りの甚ど危ふ願ひ土地の者と召寄せらる
 地理と正し且敵の横林とも探らせらる然して軍を進めり
 と言詞と尽して諫めければもヲラドツクの自己の猛勇と情と
 クス子城の滄浪と勢りや些の伏勢をどと置とも踏破つ

通るべし然のこ気をもみんと用ゆる気色みらざれば華盛頓
も詮方かく已が隊へぞ戻りゆる折ら彼方の林の中へて一声の
大砲響くと相図ふ其処の岩がけ彼所の山向より佛蘭西の伏兵
ら先陣の大將「ガーヂ」の備へ砲をすそ頻りあり「ガーヂ」の噴
哉と景ぞ立兵士と烈しく指揮しけり方よりも林の陰森の中
其処とも分ず淡炮と目くら打ふ打込せととど只一條の細道
みれば人数の指揮自由と得ず敵の諸方の物陰より打立とす
る程も更ふ一歩も進み難く然れど暫時の圖ひより一が終破れて
敗走す總大將「ブラドック」は体と足急備へと立直り散兵ふ
散らんとるまども或ひは山或ひは谷草木も閉られ岩石も支えら

と押あひ懸あひみるのこめて詮術を然れば八方の物陰より目
ウリビウリと隙間をく打出す玉の的とあり進退受ふ極りこれ
ハ総督「ブラドック」今ハ術計る何の分別もかく浮立兵士を
罵り励まし二を三に奈炮をせば打合ふ玉ハ虚空と鳴ら
彼方ハ方へ飛ぶまじく時雨ハ雑る霰の如く岩も砕け木の葉と
落し間断るくこそ見えたりけれ然れど佛軍ハ物陰英軍ハ道
中激戦数刻ホーて英軍漸々打倒さど大將「ブラドック」も既
ハ深手と負ひ朱も成て指がらすと佛蘭西勢窺ひ入て得こ
成んと物陰より踊り出して競ひ掛まハ「ブラドック」が傍ら討殘
ささる英兵ら猶奮激して戦ひられども手與と負ざる者もまけ

まは停虜とこれ討死す一今ハヲ
 ラドックも從兵僅四五人と討死
 せ既ハ危く見えたる処へ一隊の兵
 と引さま一文字ハ飛來り群り
 かる所と四角八方へ追散一威光
 揚々若大将ハ華盛頓ハ一
 忽地總督ヲラドックと救ひ出
 勝誇る佛蘭西勢と物とも思ハ
 十力戦す仏蘭西勢ハ華盛頓
 新兵ハ強ク蒐とられ再度本



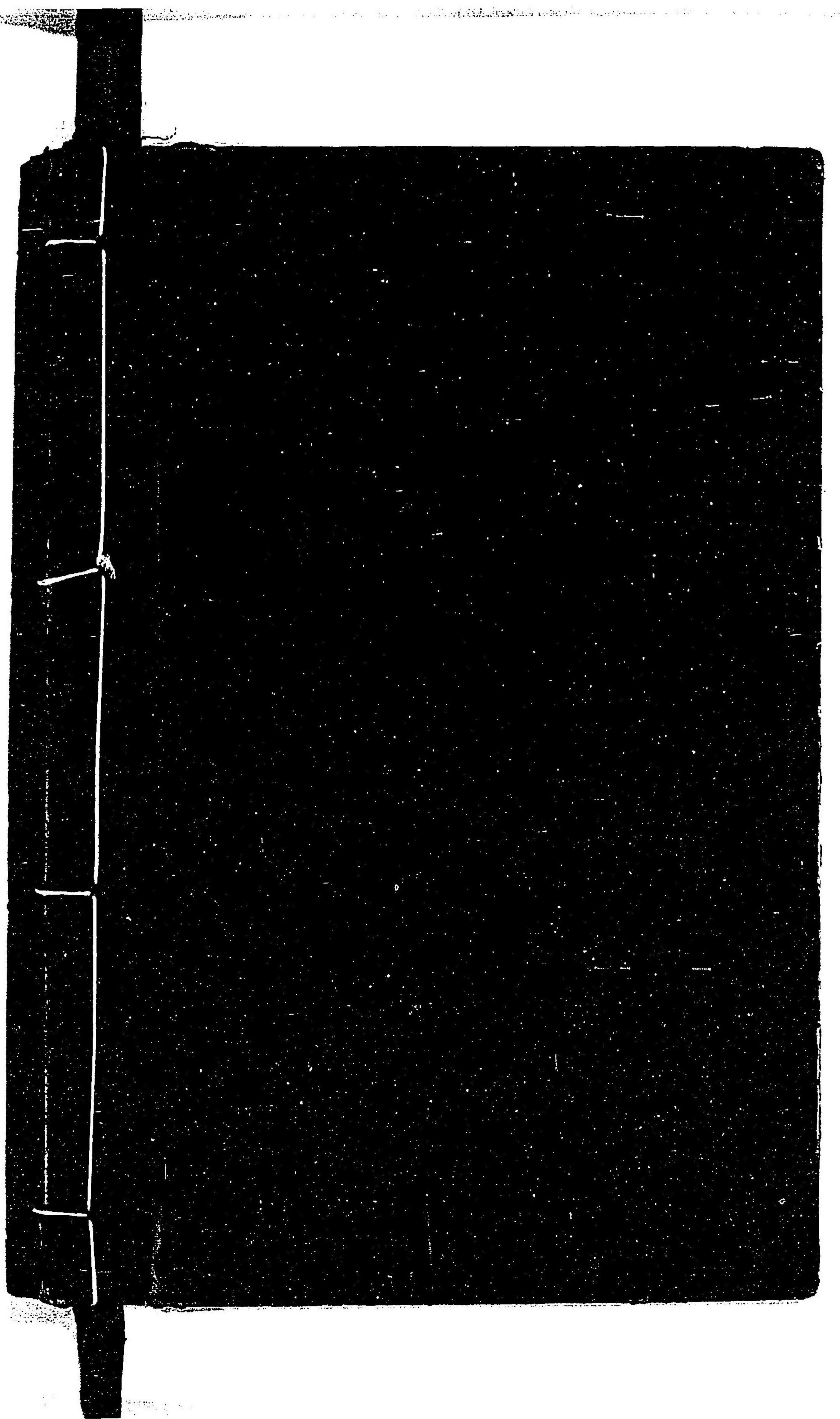
蝥へ身と竊り嚴く発炮ありけり時仏蘭西方の土人
 小銃名譽の者ありて華盛頓ハ手強ク働きと心悪く思ひ如何
 あり一華盛頓と討取らんと彼処ハ竊りけりハ頭ハ十七発
 狙ひ打たれ馬と斃す二度ハ及べど華盛頓ハ身ハ一
 ぞれ付得ざるバ發炮と投出ハ人ハ是神ありとて大ハ歎息
 せしとらん然も華盛頓戦争終りて衣服と着直ハるハ打
 援れらるハ數ヶ所ハ一で彈丸四ツまで擲げ出ハるとりハ實ハ創
 業の英主ハ死せむとや斯ハ危難の中ハ在りて手痺ハツ負
 ハざるハ後年ハ合衆国の大統領と仰がるハ高運爰ハ現
 たるハ却説華盛頓ハ仏蘭西勢の打出す彈丸の飛文中

と走繞りく味方の兵士と一ツ小纏め手負と先へ落し其
 後より徐々と殿を退く有さま天曉無双と見え
 けり佛蘭西勢の分捕小目と掛て長く追蒐来らざ
 るゆ多四五里をどふてブラドックへ踏止まり殘兵と爰に集
 再度にシユクス子城へおとんと企てけと中大にブラドックを
 敷ヶ所の手疋次第小重り今へ死ぬべく成けきば華盛頓と
 病床へ招き過日の合戦汝が異見と用ひず是苦し敗北
 爰にれば如何ふもして此恥辱と雪ぎく思へども我命最早
 且少小迫れば今へ是まであり既敵のめ小俘虜しるるべきと
 我陣中お於て死と遂るに全く汝が賜物ありとて華盛頓お

厚く謝し秘蔵の馬一疋と口ツツとりの家来と一人華盛頓お
 譲り與へ亦華盛頓が隊下あるヒルジニヤ人の働きの抜群多と
 も重く称し終に空しく成りたり爰に於て華盛頓の如何
 とも詮ぬるけしむ我が隊の病人と引纏めコンブルフンドといふ
 不き退きたり然れば度度の戦争小英吉利方うち肩け皆殺
 一お成りり多と浮説紛々と押廣まきば華盛頓の母兄弟の
 心と安んぜんとい故々へ送りたる書状あり其抜萃お曰く兄
 上さまより上の私事あり一君仕は下け度の戦争小付私事
 付死にせ長の送るはとて追風説とあるより心死可
 仕極と存い早速兵士の心知らせ仕は先と安んて下け

今度私の死と免れぬハ実ハ人カハ及ビ難キ義ト存存ハ
その沃ハ狭槍ハ四ツテト謝拔れ亦馬も一疋あらず二疋まで
打斃されハ自分ハ少一の傷も受申さずハ私同僚ハ大凡
付死仕ハ退陣後寸暇もとらぬ委細の義ハ後叙ハ悉ハ
とあり斯る困迫至急の中ハ有りても華盛頓ハ親族と思ハ
忠実多ク厚志以テ見ルベシ

西洋新書二編上終



特3:1

671

册号架副

十四本